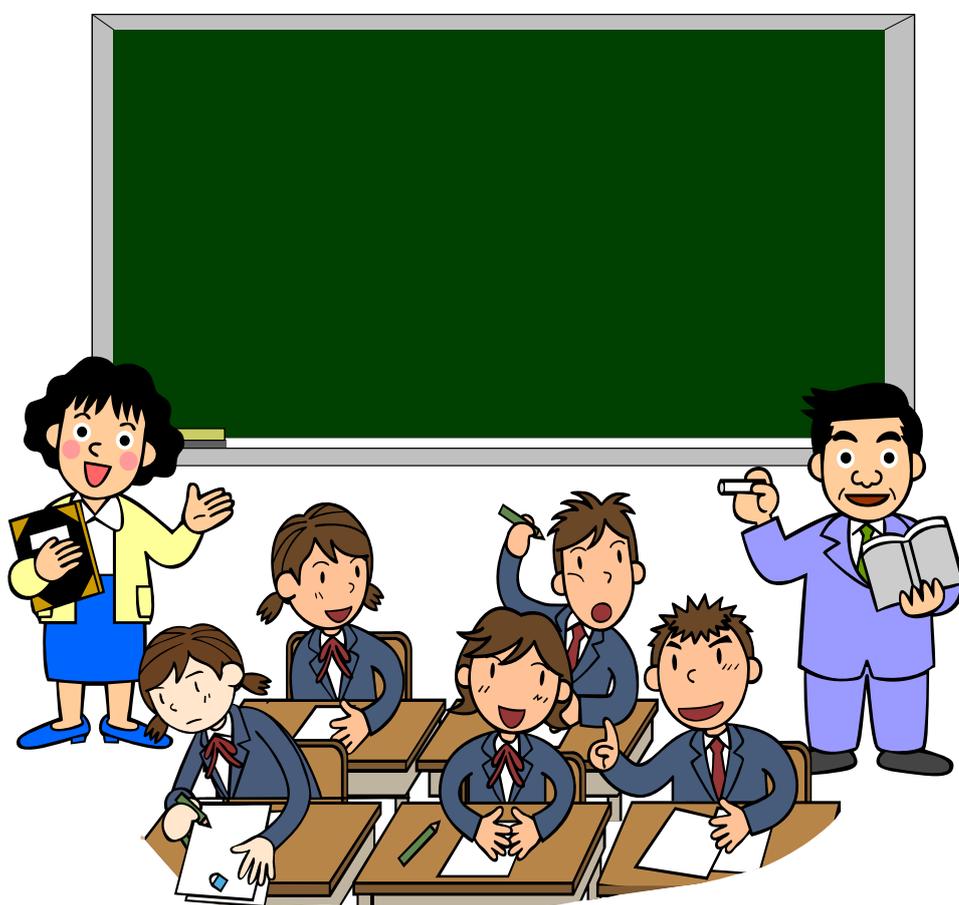


授業評価の導入と活用に関する参考資料(小・中学校編)

子どもと共に作るよりよい授業を目指して

- 授業評価と授業研究会の新しい展開 -



栃木県総合教育センター
平成19年3月

はじめに

わたしたちは、保護者や地域の人々と連携を深め、家庭や地域とともに児童生徒を育てていくという視点に立ち、様々な教育活動を実践しています。また、活動を自己評価して改善にも取り組んでいます。学校の自己評価がよりよい学校づくりに資するために行われているように、これからは、授業についても他の教育活動と同様、ねらいを明確に示し、実践を積み重ね、評価を行い、その結果や問題点、改善策を内外に明らかにすることで、改善を進めていくことが大切です。

栃木県教育委員会では、平成18年4月に、「栃木県の子どもたちの学力向上のために」と題した提言を出しました。その中で、毎時間の学習のねらいを明確にすること、ねらいを実現するための手だてを明らかにすること、ねらいの実現状況を適切に評価して授業改善に生かすことの大切さを述べています。このことは、児童生徒の「確かな学力」を育成するためには、授業づくりに際して、いわゆる「指導と評価の一体化」を実現させることが重要であることを示したものです。

授業評価もまた、「よりよい授業づくり」を目指して行われ、その結果が次の計画や授業実践に生かされるとともに、子どもたちの「確かな学力」をはぐくむための一つの方法だと考えられます。

授業評価には、「児童生徒による授業評価」、「教員相互による授業評価」、「保護者、地域住民、学校評議員による授業評価」等が考えられますが、本冊子では、主に児童生徒による授業評価と、授業研究を通じた教員相互による授業評価に関する実践を紹介しています。そこには、一人一人の教師が自らの授業を振り返り、授業を改善していく中で、「授業力」の向上を図っている事例や、授業評価を実施する際のポイントが示されています。各学校においては、よりよい授業を創造し、一層信頼される学校づくりを進めるために、本冊子をご活用ください。

終わりに、本冊子の作成にあたり、調査にご協力をいただいた宇都宮大学教育学部教授 松本 敏先生、調査研究協力校の研究協力委員をはじめ職員の方々、そして関係機関の方々に深く感謝申し上げます。

平成19年3月

栃木県総合教育センター所長

五味田 謙一

調査研究の概要について

総合教育センターでは、「授業評価を生かした授業改善の在り方に関する調査研究」として、児童生徒による授業評価を生かした授業の工夫改善の在り方及び教員の学び合う校内研修の在り方について研究を進めてきました。

児童生徒による授業評価への期待と不安

これまで教師は、「分かる授業」を行うために、子どもの願いや要望を授業づくりに生かそうとしてきました。

この調査研究の一環として総合教育センターが実施した教員の意識調査からも、児童生徒による授業評価については、「自分の授業を振り返り、授業の改善が図れる」、「よい授業を展開しようと心がけるようになる」など、その効果への期待が大きいことが分かりました。その一方、児童生徒から授業評価を受けることへの不安の声も少なくありませんでした。そこで、今回の調査研究では、授業の改善につなげるための児童生徒による授業評価の在り方について、研究協力委員のみなさんと共に、工夫と実践を重ねてきました。その結果、研究協力校の教師からは、「子どもと共に授業をつくる雰囲気できた」、「子ども理解ができ、一人一人への支援に役立った」との声が数多く寄せられました。

このように、児童生徒による授業評価を取り入れ、改善の必要な点やその原因を明らかにし、授業改善に取り組んでいくことは、授業を見直す大切な視点の一つになると考えられます。

教師が学び合う授業研究会の充実

教師はこれまでも、研究授業とその後の授業研究会を通して、互いに学び合い、よりよい授業の実践を目指してきました。前述した教員の意識調査でも、校内で教員同士が授業を参観し合い、授業研究会を行うことが、授業力の向上を図るための効果的な取組であることが明らかになりました。しかし、その取組が、これまでは、学級、学年、教科という枠を越え、学校全体としての授業改善までには至らなかったこともあるように思われます。そこで、今回の調査研究では、付箋紙を活用した授業リフレクションや、模擬授業を通した授業の振り返りなど、様々な工夫を研究協力校に試みていただきました。その結果、教師一人一人の専門性、経験、実践などをもとに、よりよい授業改善を目指す視点を見付け、教員同士が学び合うことが、学校全体としての授業改善につながっていくことが確認できました。

教員が学び合う授業研究会の充実は、今後一層学校に求められるものであり、学校経営の重要な柱の一つになるものと考えられます。

授業評価を生かした授業改善の在り方に関する調査研究

このように、児童生徒による授業評価を取り入れ、子どもと共に授業をつくっていきうとすることや、教員同士が学び合い、お互いに高め合おうとすることにより、よりよい授業が展開されるものと考えられます。

以上のような考えに基づき、本冊子は、次に示す研究協力委員及びその勤務校の先生方、指導・助言者の協力を得て作成いたしました。

調査研究協力校及び研究協力委員(7名)

芳賀町立芳賀東小学校	教諭	鈴木真恵
小山市立間々田中学校	教諭	飯塚史江
さくら市立氏家中学校	教諭	吉成俊昭
那須塩原市立大山小学校	教諭	河合奈津子
那珂川町立馬頭東中学校	教諭	岸睦美
佐野市立犬伏小学校	教諭	林瑞枝
那須塩原市立鍋掛小学校	教諭	緑川下枝

指導・助言者(3名)

宇都宮大学教育学部カリキュラム開発学講座	教授	松本敏
河内教育事務所学校支援課	副主幹	鶴見行雄
上都賀教育事務所学校支援課	指導主事	酒井邦夫

研究委員(4名)

栃木県総合教育センター 研究調査部	副主幹	小森祥一
栃木県総合教育センター 研究調査部	副主幹	矢口真一
栃木県総合教育センター 研究調査部	指導主事	吉澤正光
栃木県総合教育センター 研究調査部	指導主事	宮井由美

目 次

授業力向上の取組に関する教員の意識調査から 調査及び調査結果の概要	1
学校が抱える授業力向上を図る取組への課題	
1 校内授業研究会に参加してはみても...	5
2 よりよい授業を目指してはいるけれども...	6
調査研究協力校の実践	
1 児童生徒による授業評価を生かした授業の工夫改善	
事例1 子どもと共につくる授業を目指して	9
事例2 カリキュラムづくりに生かす授業評価	15
事例3 生徒の視点で取り組んだ授業改善への挑戦	20
事例4 授業評価によって明らかになった改善の視点	24
事例5 学校評価に授業評価を位置付けた取組	29
2 同僚性を築く校内研修 - 教員の学び合う体制づくり -	
事例6 教員の学びを進めるOJT	37
事例7 模擬授業を取り入れた授業研究会	41
事例8 授業評価とビデオを活用した授業研究会の工夫	44
事例9 ワークショップ型授業研究会	47
今回の調査から	
1 意識調査から、2 調査協力校の実践から、3 この調査研究を通して...	52
資料	
資料1 授業評価等に関するアンケート調査結果	54
資料2 児童生徒による授業評価シート(例)	57

授業力向上の取組に関する教員の意識調査から

調査及び調査結果の概要

栃木県総合教育センターでは、授業力の向上のための方策を探ることを目的として、平成18年5月から6月にかけて、授業力向上の取組に関する教員の意識及び実態について、アンケート調査を実施しました。

調査にあたっては、平成18年度の、教職5年目研修受講者、教職10年目研修受講者、教職20年目研修受講者を対象に実施し、974人から回答を得ました。ここでは、小・中学校のみのデータを用いて分析しています。

調査結果から、次のような事柄が明らかになりました。

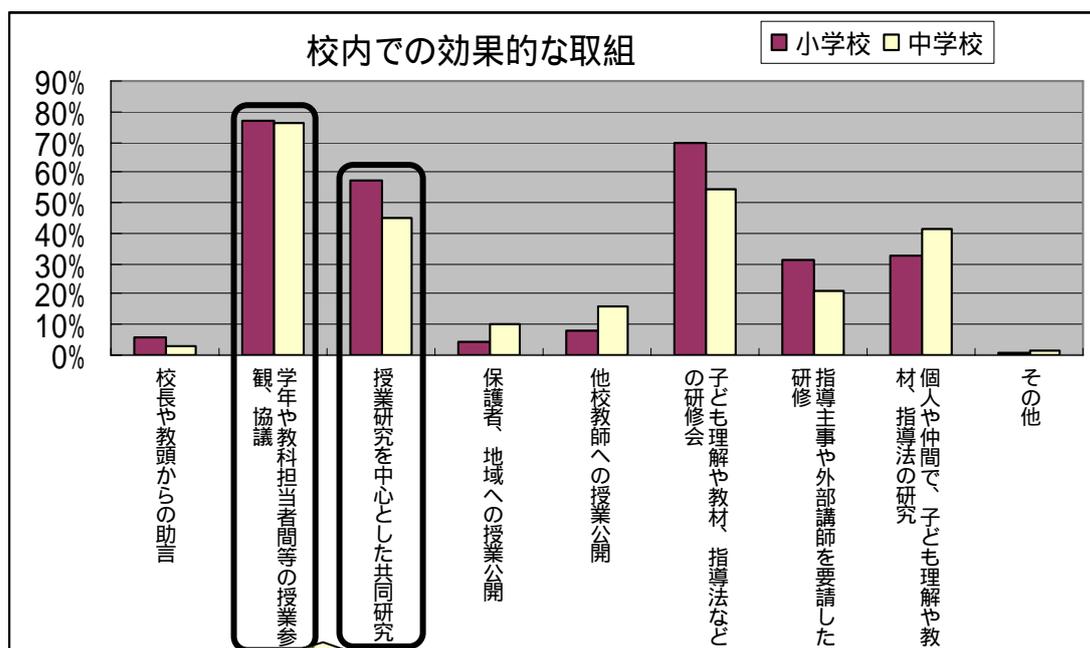
調査結果から明らかになったこと 1

授業力の向上を図るための、校内での効果的な取組は、研究授業と授業研究会。

若手の教員ほど研究授業と授業研究会が有効だと感じている。

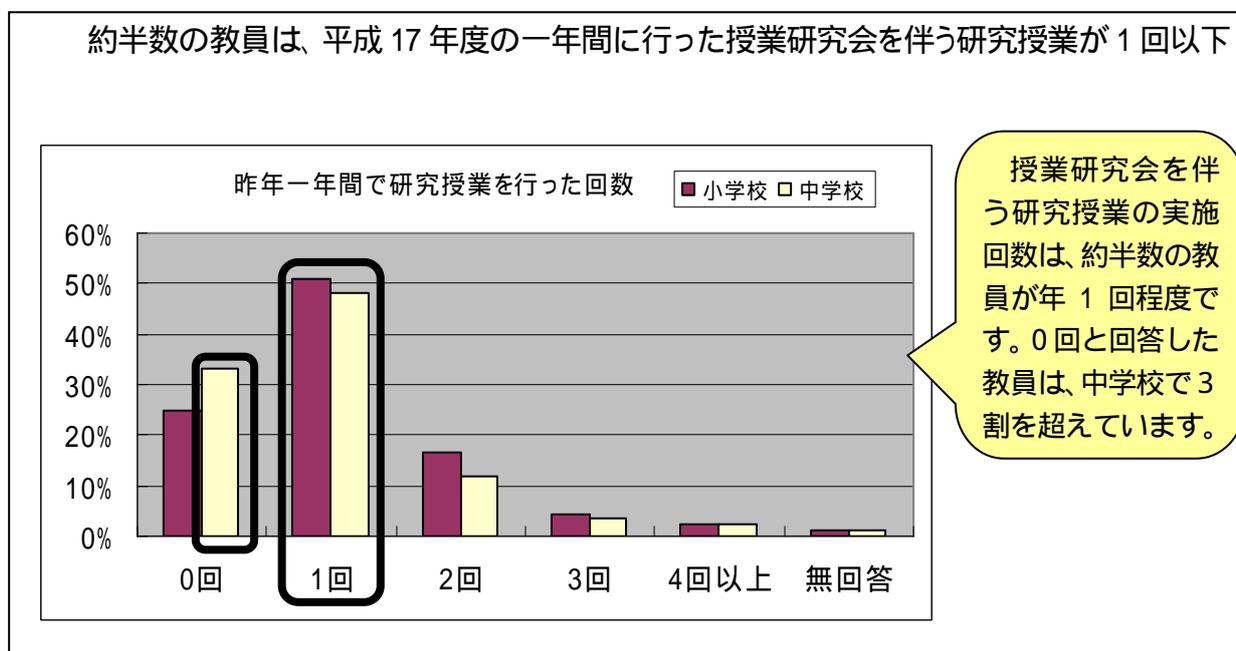
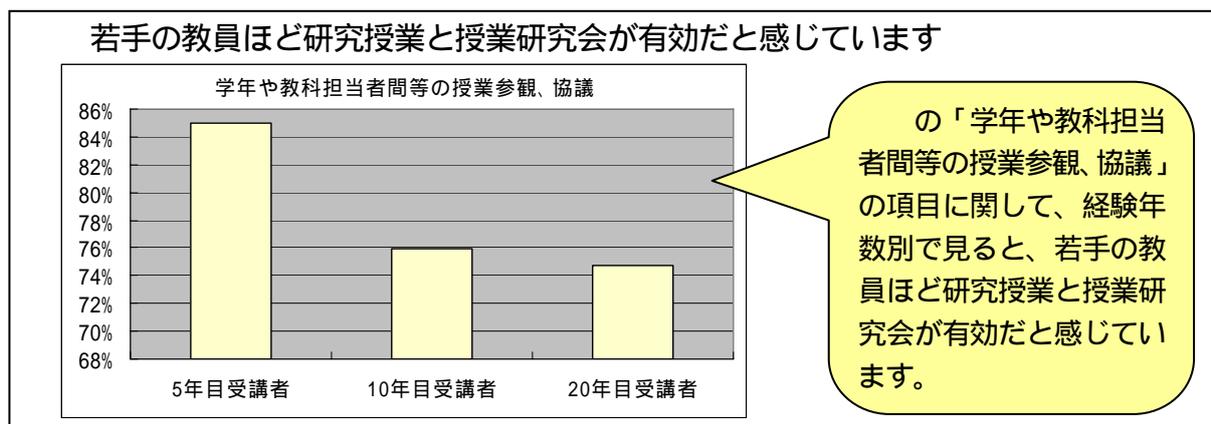
約半数の教員は、平成17年度の一年間に行った授業研究会を伴う研究授業が1回以下。

授業力の向上を図るための、校内での効果的な取組は、研究授業と授業研究会



授業力向上のための効果的な校内の取組は、「学年や教科担当者間等のチームで授業を参観し合い、協議をする」、「授業研究会を中心とした共同研究をする」等の回答が多くありました。このことから、他者に授業を見てもらい、アドバイスや感想を得ながら、提供した授業をもとに一緒に考えていくことが授業力の向上に最も効果的であると考えている教員が多いことが明らかになりました。授業力の向上を図る効果的な方法として、教師は、授業研究が最も効果的であると考えています。

次に、最も回答が多かった「学年や教科担当者間等の授業参観、協議」の項目のデータを経験年数別に見てみました。



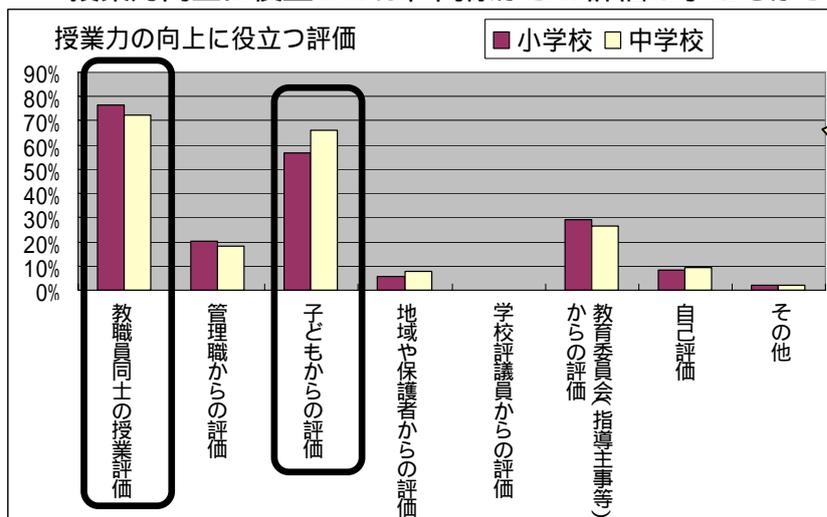
以上のことから、「教員同士が互いに授業を参観し合い、授業について協議を深める授業研究会」が授業力向上を図るための効果的な校内の取組であると、多くの教師が考えていることが明らかになりました。しかし、実際に 17 年度の一年間の実態を見ると、授業研究会が必ずしも活発に行われているとはいえない状況にあります。

評価者のうち、自身の授業力の向上に役立つと思われるのは、誰からの評価が尋ねてみました。

調査結果から明らかになったこと 2

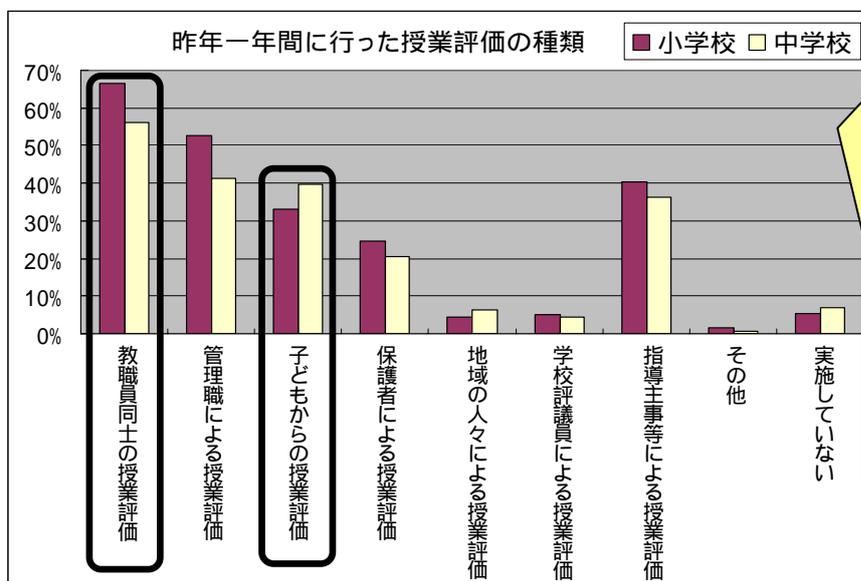
授業力向上に役立つのは、同僚からの評価と子どもからの評価。
教職員同士の評価に比べ、子どもによる評価の実施率は低い。

授業力向上に役立つのは、同僚からの評価と子どもからの評価



多くの教員が、授業力向上に役立つのは、「同僚からの評価」と「子どもからの評価」だと考えています。

教職員同士の評価に比べ、子どもによる授業評価の実施率は低い



実際に行われている授業評価のうち、教職員同士による評価が最も高く、次いで管理職による評価、指導主事等による評価と続いています。一方で、授業力向上に役立つと思われる「子どもからの評価」は「教職員同士による評価」と比べ、小学校では半数ほどの実施状況です。

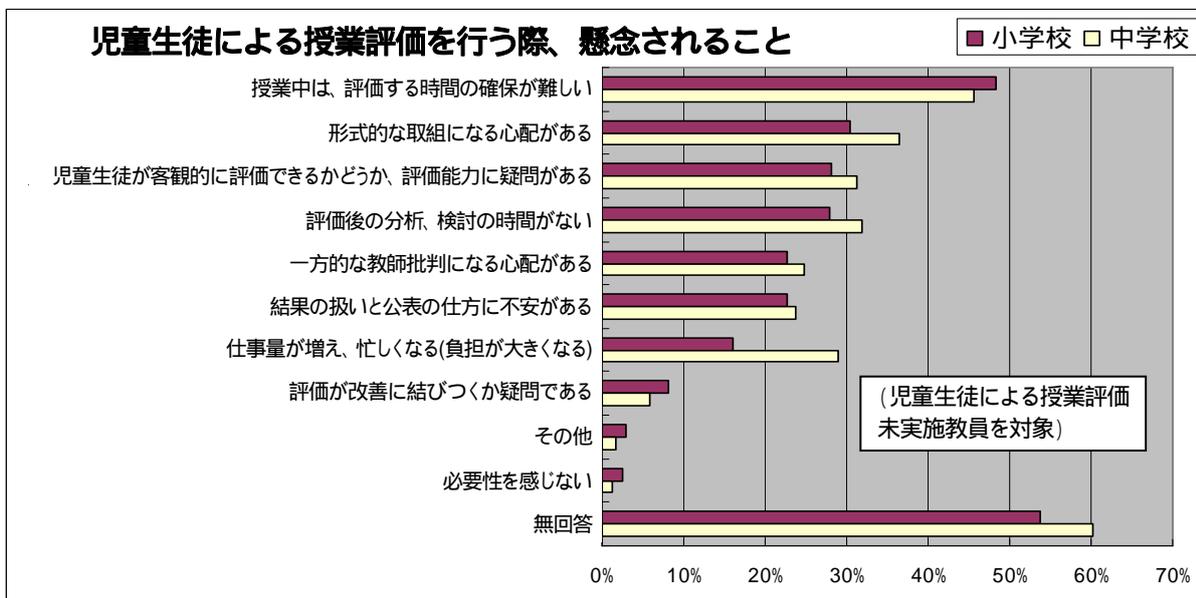
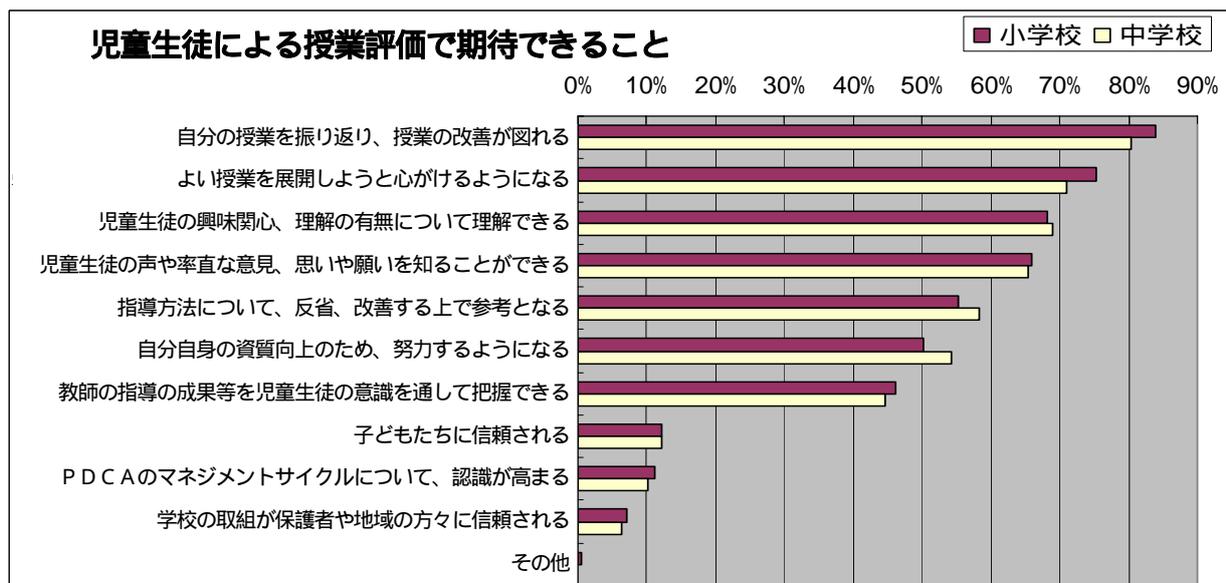
以上のことから、同僚と子どもからの評価が授業力向上に役立つと考えている教師の割合が高い一方、教職員同士の評価に比べ、子どもによる評価の実施率が大幅に低いことが明らかになりました。

児童生徒による授業評価の期待できる効果と、実施するにあたって懸念されることについて尋ねてみました。

調査結果から明らかになったこと 3

児童生徒による授業評価で、期待できる効果は、「授業の振り返りを通して、授業の改善が図れる」「よい授業の展開を心がけるようになる」等。

児童生徒による授業評価を行う際に懸念されることは、「評価する時間、評価後の分析、検討の時間の確保」、「形式的な取組への懸念」、「児童生徒の評価能力の問題」等。



以上のことから、児童生徒による授業評価には、授業の改善をはじめ様々な効果を大いに期待している一方で、未実施の教師にとっては、実施上の懸念も少なくないことが明らかになりました。

学校が抱える授業力向上を図る取組への課題

1 校内授業研究会に参加してはみても・・・

年度初めのある日、学校課題担当者から次のような説明がありました。



今年度の学校課題は、生徒の学ぶ意欲を高める授業の展開を図るため、「分かる授業、達成感のある授業の創造」と設定しました。課題解決のための重点的な取組として、各学年で必ず一度は授業を公開し、授業研究会をもつようにしたいと思います。各学年で話し合っ、実施月と授業者をお知らせください。

その後の学年部会での出来事です。



10月、A教諭は先輩教員に見られても恥ずかしくない授業をしたいという思いで、何日もかけて一人で指導案を検討し、「見せる授業」追求のために教材研究に励みました。研究授業当日、A教諭は、検討した指導案どおり忠実に進めようと心がけました。



このような研究授業になっていませんか？

その後の授業研究会では、先輩教師から、「板書計画がきちんとされていて、よかったと思いますよ。」というような感想や、「あそこでは、すべきではなかったのではないか」、「指導案の展開を意識しすぎているのではないか。」等の授業の改善点に関する助言がありました。

一方、1時間の授業研究会の中で、全く発言しない教師も少なくありませんでした。授業研究会は管理職の講評で幕を閉じました。

このような授業研究会になっていませんか？

授業研究会後、自分の授業を公開したA教諭には、授業を公開して勉強になったという思いよりも、「終わってほっとした。」という思いが強く残りました。そして、来年の研究授業は自分に当たらないことを願いました。

授業提供者が「提供してよかった」、参観した教員が「参加してよかった」と思える校内研修(授業研究会)は、 - 2を参照してみましょう。

2 よりよい授業を目指してはいるけれども・・・

「農家の仕事はどうやって調べればいいのか？」B教諭が子どもたちに投げかけた質問に、C君が勢いよく手を挙げて発言しました。「図書室に行って調べれば良いと思います。」B教諭はその答えに対して「ほかにありませんか。」と、間髪を入れずに他の答えを要求する発問をしました。B教諭が深く考えずに発したこの一言で、C君は下を向き、活気のある教室の雰囲気が沈滞してしまいました。B教諭は「どうしてだろう。」と思いつつも、授業を進めていくしかありませんでした。

このような経験はありませんか？

授業後、B教諭は、C君がどうして急に下を向いて黙ってしまったのだろうか、と考えても分かりませんでした。そこで、日ごろから気になっていた授業のことについて、同僚に相談してみました。

毎日、忙しさにかまけて、教材研究も十分じゃないまま授業をしちゃっています。子どもたちは、そんな私の授業をどう思っているのか心配なんです。



私も毎日の授業を計画的に進めることで精一杯で、授業を振り返る余裕がないよ。私の授業の方こそ、子どもたちはどう思っているのかな？

このように、子どもの行動を通じた授業の振り返りができていますか？

どのように指導し、どのように子どもと関われば、楽しい、分かる授業が展開できるのか、具体策が思いつかないまま日々授業に臨むしかありませんでした。

数日後、二人から相談を受けた学習指導主任から、次のような提案がありました。

児童が授業をどう受け止め、どれだけ理解できたか、児童から授業評価をしてもらい、その評価結果を生かして授業の改善を図りませんか？



しかし、今のままでは子どもたちからよい評価が得られないのではないかという不安があり、授業評価を実施できないでいました。

B教諭は意を決して、授業後に、授業についての感想をノートに書くよう児童に言ってみました。ノートには、予想以上にたくさんの感想や質問、要望などが書かれました。児童一人一人の顔を思い浮かべながら読むうちに、C君がなぜ授業中に下を向いていたのか、質問しても他の児童がなぜ答えなかったのか、どこが分かりにくかったのか、児童が授業に何を望んでいるのかなどが分かってきました。

そうか、それならば明日の授業では、このようにやってみよう。



「よりよい授業づくり」を目指した、授業評価の実践は、- 1を参考にしてみましょう

調査研究協力校の実践

1 児童生徒による授業評価を 生かした授業の工夫改善



「教室は生徒を教えながら、教師である私も生徒に教えられながら、生徒が進むとともに、私もその日、何らかの意味で教師として成長する、そういう場所であればならないと思います。そういう教師の成長ということのない教室というのは、いろいろ骨を折ってみても、結局、生きた教室にはならないでしょう。教師である私が何も成長しないで止まっているのに、子供たちだけを成長させるというわけにはいかないと思います。」¹

¹ 大村はま 著「教えながら 教えられながら」の一節

事例1 子どもと共に作る授業を目指して

【小学校】子どもによる授業評価を生かして、子どもとのコミュニケーションを図り、児童も教師も積極的に授業に取り組んでいます。教員一人一人が子どもたちの声を授業の改善に生かすことで、子どもたちも自分の声を先生が取りあげてくれたと実感しています。

この小学校では、今年度の学校課題を、「自分の考えを伝え合うことのできる児童の育成 ～よく聞き、よく読む力を伸ばす指導方法の工夫～」とし、主として国語科の授業研究を通して、児童の授業評価も取り入れ、研究を進めています。

児童による授業評価を実施するのに先立って、7月に、「児童による授業評価」に関する職員の意識調査を行いました。そこからは、「授業改善を図れる」、「児童生徒の教材、単元への興味関心、理解の有無を把握できる」、「よい授業を心がける」等の効果を期待しつつも、実施にあたっては、「(小学生には)評価能力に疑問がある」、「評価する時間の確保が難しい」等の課題を感じていることが分かりました。学習指導主任は、10月の校内研究授業の際に、思い切って児童による授業評価の実施を呼びかけました。

先生と子どもたちが一緒になって授業を作っていくためにも、児童による授業評価を実施してみませんか？ 授業について、きっと子どもたちから教わることもあるかもしれませんよ。児童理解のためにも、まずはやってみましょう。



低学年の子どもに評価ができるのかしら。

授業中に、評価の時間を確保するのは難しいね。

また、仕事が増えるな。

教師批判にならないか、心配だわ。



このような中、10月には、低・中・高学年ブロック毎の校内研究授業を行い、授業後に児童による授業評価を行うことにしました。職員のコンセンサスが得られないままのスタートでした。

1 質問による授業評価(低学年の授業評価への試み)

質問紙による授業評価は、低学年の児童にとって、記入に時間がかかり、評価する時間の確保が難しいことが予測されました。そこで、1学年担任のA教諭は、授業についての児童の声を拾い上げる手段として、教師が質問項目を読み上げ、挙手をしてもらうという方法を取り入れてみました。

児童に尋ねた項目は、次のとおりです。

先生の教え方は、よく分かりましたか？

- 1 黒板の文字は大きくて、見やすく書かれていましたか。
- 2 先生の声はよく聞こえましたか。
- 3 先生の説明は分かりましたか。
- 4 黒板は見やすかったですか。
- 5 机なしでグループ練習しましたが、やりやすかったですか。
- 6 グループの発表をビデオ撮影したことでやる気が出ましたか。

先生の教え方についてみんなの声を聞かせてね。みんなからの意見をもらって、もっともっといい授業をしていきたいの。だから、思ったとおりに答えてください。



A教諭は、この質問に対する児童の回答から、板書や発問・説明等はおおむね良好である一方、文字が小さいと感じている児童もいることが確認できました。すべての項目に「良くなかった」と回答している児童がいることにも気付きました。

自由記述もさせたところ、半数の児童は自分自身の学習の反省を書いてしまいました。しかし、その後、二度、三度と授業評価を重ねて実施していくうちに、下記のような、教師に対する授業の評価を記入できる児童が増えてきました。

先生のおみかたがとても良かったです。
先生のしつもんはよくわかりました。

授業の改善に生かしたこと

授業評価を行うことで、本時の学習に取り組む児童一人一人の気持ちが分かり、次時の学習では、その児童に応じた言葉かけや支援、活動の内容、指名する順番などを工夫するようにしました。

【授業評価を実施してみた】1年生には、自分の学習を振り返ることもまだまだ十分ではありません。だから、私自身、教師の指導に対する評価など到底無理ではないかという思い込みがありました。しかし、質問事項を吟味し、随時、評価方法を説明しながら回を重ねていけばできないことはないということが実感できました。



2 自由記述式による授業評価への試み

翌週、B教諭が第3学年の研究授業を行いました。単元名「分類ということ」という国語の授業です。授業を行うにあたっては、普段の授業よりも意識して「聞き取りやすい早さで丁寧に説明する。」ことに取り組みました。

B教諭は、自分の授業が児童にどのように思われたのか、児童の率直な意見や感想が聞きたくて、授業終了時に「今日の授業はどうでしたか」、「今日の先生の教え方はどうでしたか」という評価（質問）項目で、自由に記述させました。

児童からは、次のような回答が寄せられました。

今日の授業はどうでしたか

- ・いつもよりよい話し合いができたと思います。分類も思い出してみると、いくつも分類をしていたのでおどろきました。
- ・分類というのがよくわかった。ともだちがどんなことを考えているかよくわかった。
- ・同じわけかたでも、くわしくわけたり、かんたんにわけたりしてちがうことがわかった。
- ・グループの発表をきいて、どんなわけ方をしたかよくわかりました。
- ・ふつうでした。

今日の先生の教え方はどうでしたか

- ・先生のはっぴょうがききやすかった。
- ・ていねいでわかりやすかった。
- ・いつもよりものすごくわかりやすかったです。また、おしえてください。
- ・先生がゆっくり言ってくれたのでわかりやすかった。
- ・いつもとかわらなかった。

多くの児童が、「分類することが分かった」、「丁寧に教えてくれて分かりやすかった」と回答しており、授業への理解度、満足度が高いことが分かりました。一方、「教え方はいつもと変わらない」と感じている児童がいることも把握することができました。

授業評価を実施して気付いたこと

B先生、授業評価を行って、何か気付かれたことはありましたか？

自由記述による授業評価を行ったのですが、子どもたちからの感想や励まし（授業の内容が分かったなど）を見て、自分の授業を振り返ることができました。今回の指導について反省する、よい機会になりました。

そうですか。今回は児童の感想による授業評価でしたが、次回実施するときは、どのような点を工夫したいと思いますか？

児童による授業評価を行う際には、いくつかの視点・観点を与えて記述させるとよかったですと思いました。評価（質問）項目ももう少し細かな（教師が知りたい）表現で聞けると、具体的な学習活動や教師の指導について分析できると思いました。

授業評価を行うことで、いろいろなことに気付くことができました。何より児童から学ぶことが多いということに気付かれたことは、今後の子どもたちとの関係づくりに役立つと思います。

3 授業評価を生かして、子どもと共につくる授業

第6学年国語の教材「やまなし」を扱った校内研究授業での出来事です。担任のC教諭は、「やまなし」の12月の部分を模造紙に書き写したものを、授業が始まる少し前に黒板に貼りました。



子どもたちから学んだこと、その1

児童からは「先生すごいね。これいつ書いたの?」、「これ全部、先生が一人で書いたの?」などという質問が沢山出ました。授業が始まる前から児童は興味津々です。「そうよ、がんばってこの前の土曜日に一人で書いたのよ。」後から入ってきた子どもたちからも黒板いっぱい貼り出されている模造紙を見て、「おー、すごい。」という声があがりました。

C教諭は、この教材を用意することで、子どもたちからこんなに反応が返ってくるとは思ってもみませんでした。児童が書いたものを模造紙に書き込み、全員で見ることができるようになりたい、という思いで準備したのもだったからです。このような児童の驚嘆の反応を実感することができ、平日頃からの教材研究の大切さ、重要さに改めて気付きました。これが、この授業で、児童から学んだことの一つ目でした。

子どもたちから学んだこと、その2

本時のねらいは、12月と5月の違いを読み比べることでした。まず、12月を斉読させた後、各自で黙読させました。その後、「やまなし」の12月と5月の表現の違いを比較するのに、明るく楽しいと感じた表現をピンクで、冷たくさびしく怖い感じの表現は青色で、各自が感じたところに線を引かせました。また、なぜそう感じたのか、5月に線を引いた箇所の表現と、12月の線を引いた箇所の表現に何か違いはないかを、ワークシートに書かせました。

すると、子どもたちから、「先生、比べるなら、5月も読み直したほうがいいよ。」



との声があがりました。C教諭は、前時に5月を読ませていたので、改めて読み直さなくても比較ができると思っていました。しかし、確かに5月と12月の表現の違いを読み比べようとするなら、5月も読み直した方がよいと思いました。そこで、子どもたちの意見を生かし、途中から、授業の流し方を修正しました。児童から学んだことの一つ目でした。

子どもたちから学んだこと、その3

読み進めていくうちに、ある班の子どもたちから、ピンクでも青でもない文章がいっぱいあるというつぶやきが聞かれました。「何色がいい？」、「この部分は、ピンクの感じでも青の感じでもないよね。色で表そうとすると何色がいいかな？」、「緑があっているんじゃない。」そんな話し合いがなされていました。深く読み取れば取るほどに、子どもたちの疑問は深まっていきました。授業の最後に、児童による授業評価を実施しました。

児童による授業評価の中に、図1のような記載がありました。その他に、授業評価票には「もっと話し合いの時間を長く取って欲しかった。」「続きを早くやりたい。」と書かれたものもありました。C教諭は、児童一人一人が示した授業中の様子を思い浮かべ

平成28年11月17日(火)曜日 (6)学年 教科名(国語) 氏名	
◇今日の授業について、あてはまるところに○をつけてください。もっとよい授業をするために生かしたいと思います。	
1 授業のねらいが分かった(何を学習するかがよくわかった)。	とても そう思う
2 授業の内容が理解できた。	すこし そう思う
3 考える時間が十分にあった。	あまり 思わない
4 自分の考えを出す場があった。!	まったく 思わない
5 先生が自分の考えを引き出そうとしてくれた。	
6 分かったことやできるようになったことがあった。	

みねのびんの月光と、白いやわらかな～のところが、
よ、話し合えない。あ、でも、青でもないの、緑色を作ってほしい。

図1 児童による授業評価

ながら読んでいるうちに、子どもたちから限りない「元気」をもらった思いがしました。次時には、「緑色」の線を使って子どもたちそれぞれの気持ちを表現させることにしました。児童から学んだことの三つ目でした。

意見を書いたグループの児童は、自分たちの意見が取り入れられた思いもあり、前時以上に意欲的に取り組んでいました。

この事例では、教師が子どもたちの声を聴き、授業づくりに役立てることができ、子どもたちも自分の意見が先生に伝わったという思いを授業の中で実感することができました。毎時間、資料などを工夫することは難しくても、児童の声を生かそうとする姿を教師が見せることで、児童の学習意欲が高まることに気付かされました。

「さみしい気持ちがする文」を青色で、「明るく楽しい気持ちがする文」には赤色で線を引かせましたが、赤でも青でもない文があるので、緑色を使いたいという声が出てきました。

このような感想が出てきたときには、なるほど、もっともだと思いました。



児童の意見を取り上げ、授業に生かそうとすると、その生かそうとする事柄をきちんと子どもたちに伝えることが大切です。子どもたちにとって、授業評価票に意見を書くことは、大変勇気のいることです。教員が、「あなたの意見は、よい授業をおこなうために貴重な意見です。」というメッセージを直接子どもたちに伝えることで、子どもたちはこれまで以上にその授業が好きになり、教師が好きになり、授業に積極的に参加しようという意欲が芽生えてくるものと思われます。

これらの実践を通して、この小学校の教師は、児童による授業評価について、次のような実感を持つようになりました。

児童に授業評価を試みる以前は、児童が客観的に評価できるのか、評価能力に疑問をもっていました。実践してみると、児童の素直な声は、教師も素直に受け入れられるものでした。

「教師批判につながるのでは。」という懸念もあったけれども、批判めいた評価は今のところ全くありません。むしろ、児童と共に授業をつくる雰囲気ができました。

児童たちは、教師が反省するほど、授業をよくなかったとは思っていないことがわかり、励まされました。どの子も、自分なりに「がんばろう」としていることを実感することができ、私自身も気持ちを新たに「がんばろう」と思いました。



児童理解ができ、一人一人へ対応（支援・言葉かけ）する手だてにつながれると思いました。

今まで以上に、児童の立場に立った授業を意識するようになりました。

この事例から学ぶこと！

- 各学年の発達段階に応じて、授業を振り返る方法を再検討し、授業改善を図ったこと。
- 授業評価を疑問視していた教師が、実際に実施することで、子どもたちの声を聞くことができ、授業を見直そうとする意識が高まったこと。
- 授業評価を実施し、子どもたちの意見を取り入れた授業を展開していくことで、児童と教師の信頼関係が増していること。

ワンポイントアドバイス！

- ◇ 授業評価を行う方法としては、評価シート、挙手、面談（聴き取り）、観察などいろいろな方法があります。それぞれによさがあり、これが一番というものはありません。発達段階や評価する目的、時期等に応じて、自分にあう評価方法を工夫していくことが大切です。
- ◇ 授業評価を行う際には、自分の至らなかったことも含めて子どもたちに示し、伝えることが大切です。逆に、それができかどうかで授業評価を行う意義が決まってくると思います。ある面、子どもたちに自分の指導のまずさをさらけ出すことにつながるわけですから勇気が必要です。でも、そうやって教員と子どもたちの人間関係が築かれ、そのことがよい授業づくりの基礎となっていくものと思います。



事例2 カリキュラムづくりに生かす授業評価

【小学校】児童による授業評価を通して、自分の授業の課題を見つけると同時に、その課題から解決策を見出しています。そして、日々の授業実践における教師の工夫と、それに対する子どもの学びについて省察を繰り返すことで、カリキュラムづくりに生かしています。教師自身が子どもから学び続けること、その結果として子どもに根ざしたカリキュラムが作成されています。

この小学校では、教科ごとに調査用紙「学習のようすしらべ」を作成し、学期に一度、学習に対する意欲、授業の進度、教師の指導、教科への満足度等に関する授業評価を行いました。実施にあたっては、児童に「授業をよりよくするために実施すること」を説明しました。また、評価結果を指導に生かせるように記名式にすること、加重負担にならないよう、調査対象の教科を学年で選択するなど工夫して行いました。低学年には平仮名表記を用いて平易な表現にし、必要に応じて担任が補足説明を加えながら実施するなど、児童の発達段階、教科に応じた評価表を作成しての実施でした。

1 マネジメント・サイクルによる授業改善

(1) 第1回の調査(6月下旬)

A教諭が行った、第1回授業評価の結果からは、ア、エ、カの評価結果が、他の評価と比較して低いことが明らかになりました。A教諭はそれらの項目について、改善の重点化を図りました。

学習のようすしらべ [家庭科]6年 組()
このアンケートは、楽しく、よく分かる授業にするために、みなさんの考えをたずねるものです。あてはまる番号に をつけましょう。

ア あなたは家庭科の勉強をどんな気持ちでやりますか。
意欲的(やる気十分)にやる まじめにやる
あまり集中できない 意欲(やる気)がもてない
、 と答えた人はそのわけを書きましょう()

イ 家庭科の学習を生活に生かしていますか。
いつでも生かしてやる ときどき生かしてやる
少ししか生かしていない 生かしていない
、 と答えた人はそのわけを書きましょう()

エ 先生の話し方はどうですか。
言葉がはっきりしていてよくわかる 声が大きくてよくわかる
声小さくてよくわからない 早口で聞き取れない

オ 黒板の文字の大きさ、書き方がよく見やすい

カ 実技の説明や手本はどうですか。
わかりやすい ていねいである 手本をもっと見たい
ことばがむずかしい

キ 質問に対する先生の答え方はどうですか。
いつもていねいに答えてくれる 内容によっては答えてくれる
後で個人的に答えてくれる 質問に答えてくれない

ク 学習の様子であてはまるものを2つ選んでください。

ケ この学習の満足度はどの程度ですか。

「学習のようすしらべ」の集計
家庭科 6年1組 30人
6/29(木)実施

ア	5人	15人	6人	2人
イ	7人	20人	3人	0人
ウ	22人	3人	5人	0人
エ	6人	15人	8人	1人
オ	14人	12人	4人	0人
カ	9人	11人	6人	2人
キ	25人	2人	2人	1人
ク	18人	7人	3人	2人
ケ	4人	22人	3人	1人

同じ児童

否定的な評価(,)を選んだ児童が多かった項目について改善の重点化を図ることにしました。

第1回の調査後、すぐに改善を図った点

(ア) 否定的な意見が多かった項目の改善

話す速さと大きさ

A教諭は授業中ゆっくりと大きな声で話しているつもりでしたが、家庭科室は普通教室より広く、教室後方の児童には聞き取りにくいことが、「エ 先生の話し方はどうですか。」の質問項目から分かりました。そこで、クラス全体に聞こえているかどうかを確認しながら、授業を進めるようにしました。

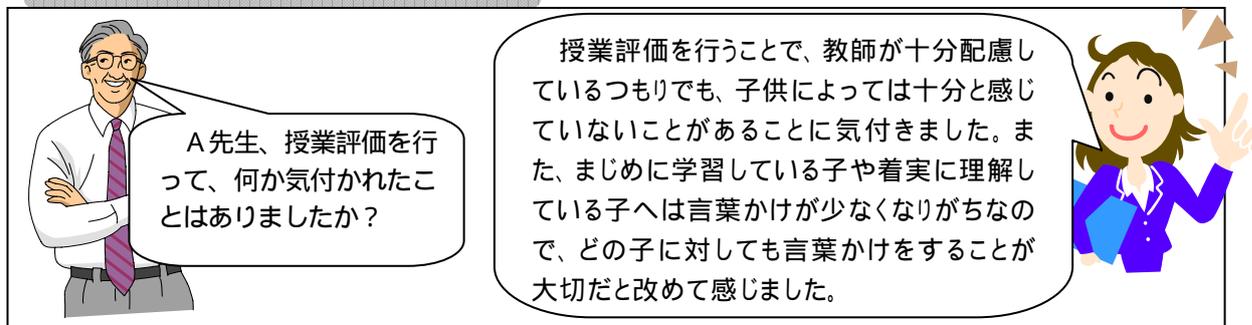
実技の説明や手本

「カ 実技の説明や手本はどうですか。」の質問項目の結果を受けて、実技の説明を教師用台の周りに児童を集めて行い、必要に応じてグループごとに手本を示して説明しました。また、作業の方法が分からなかった児童には、個別に手本を示すように努めました。

(イ) 評価が低かった児童への対応

「キ 質問に対する先生の答え方はどうですか。」と「ケ この学習の満足度はどの程度ですか。」の質問項目に、両方とも低い評価の と回答した児童がいました。この児童は、普段の授業では教師の話をよく聞き、理解力もあるため、A教諭は、何の問題もなく授業に取り組んでいると感じていました。そこで、休み時間に声をかけて訳を聞いてみると、実技にはやや自信がないこと、個別に声をかけてもらうことを望んでいることが分かりました。さっそく次の授業から、よく目を合わせ、声をかける回数を多くしたところ、児童は積極的に発言をするようになりました。

授業評価を実施して気付いたこと



時間をかけて改善を図った点

カリキュラムづくりへの取組

質問項目「ア あなたは家庭科の勉強をどんな気持ちでやりますか。」の授業への取組について否定的な評価をした児童は、自由記述欄に家庭科の学習内容が「あまり役に立たない」、「つまらない」と書いていました。そこで、A教諭は、分かりやすく楽しい授業、生活に役立つ授業を目指すことを課題としました。毎時間、授業のねらいをはっきりと提示して、ていねいに説明するよう心がけました。

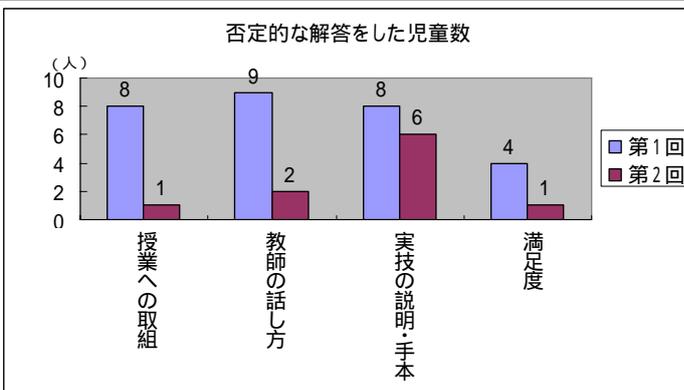
また、「楽しい食事をくふうしよう」の題材では、題材の展開を改善して、「家族のためのオリジナル弁当を作ろう」を学習課題に設定しました。子どもたちは、食べる相手を意識したメニューづくりや盛りつけに工夫を凝らすなど、意欲的に活動

しました。児童一人一人の思いがこもった弁当を写真に撮り、また、実際に家族に食べてもらうようにしました。この活動を通して、第2回「学習のようすしらべ」の結果では、否定的な回答をした子どもたちも、家族とのつながりを感じ、生活に役立つ学習を実感できました。A教諭は、生活に生かせる題材設定をすることが大切だと感じました。

(2) 第2回の調査(10月下旬)

10月の「学習のようすしらべ」では、6月から重点的に改善を図ってきた項目について調べました。教師が改善点を評価する上で尋ねたいことに絞って選択肢を設定しました。結果は以下のとおりでした。

第2回「学習のようすしらべ」の調査結果		6年組 家庭科 10/5(28人)					
ア あなたは家庭科の学習をどんな気持ちで取り組みましたか。							
やる気十分である	6	まじめに取り組む	21	あまり集中できない	1	やる気がもてない	0
エ 先生の話し方はどうですか。							
言葉がはっきりしてよく分かる	7	声が大きくてよく分かる	18	声が小さくてよく聞かない	0	早口で聞き取れない	2
その他 小さいときもある						1人	
カ 実技の説明・手本はどうですか。(2つまで選んでよい)							
わかりやすい	14	ていねいである	18	ことばがむずかしい	2	説明が長い	4
ク 実習を行ってどうでしたか。							
簡単で役に立つことである	18	簡単だったが役に立たない	0	やってみるとむずかしかった	6	簡単すぎて物足りない	1
ケ 全体として、家庭科の授業への満足度はどうですか。							
非常に満足である	3	満足である	17	どちらでもない	7	不満である	1



左のグラフは、第1回、第2回の調査において、否定的な回答をした児童数を比較したものです。重点課題として取り組んできた全ての項目において、否定的な回答をした児童数が減少しました。

授業評価を実施して気付いたこと



今回、授業評価をもとに、授業を改善してきましたが、一連の実践で気付いたことはどんなことですか？

第2回の調査では、質問項目に応じた選択肢を設定し、設問ごとに自由記述欄を設けたことで、子どもの要望やつまりがより具体的に分かり、その後の指導や支援に生かすことができました。また、「オリジナル弁当をつくろう」のように、授業評価の結果をカリキュラム作りに生かすと、授業の質が高まり、子どもたちが積極的に取り組めるようになると分かりました。

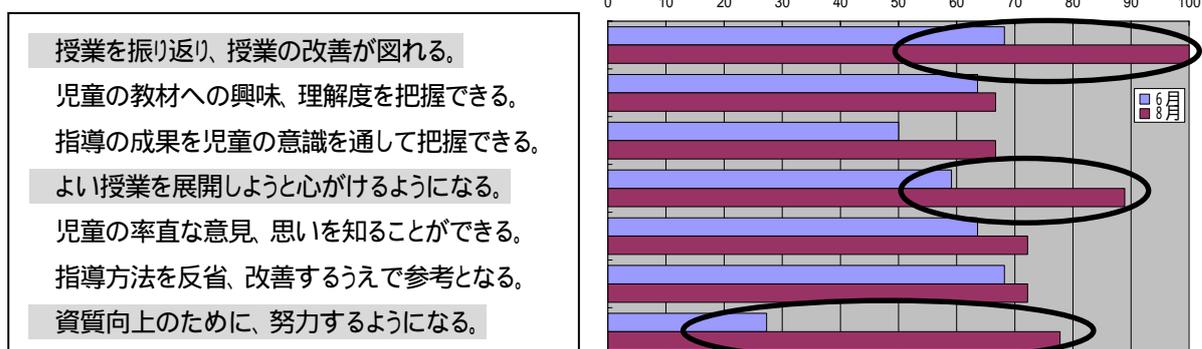


2 児童による授業評価を実施して

この学校では、先生方に「授業評価に関するアンケート」を行いました。アンケート結果からは、第1回目の授業評価実施前（6月）と実施後（8月）では、先生方の授業評価に対する意識が大きく変わったことが分かります。

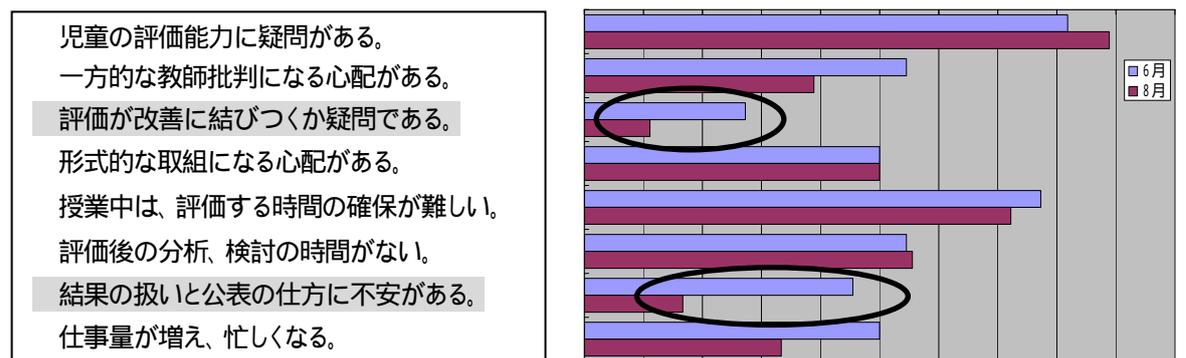
期待される効果

授業評価実施前に比べて、実施後は、「自分自身の資質向上のため努力するようになる」、「児童から見て、授業がどうであったかが分かり、よい授業を展開しようと心がけるようになる」、「自分の授業を振り返り、授業の改善が図れる」と回答した教師が増えました。授業評価を肯定的にとらえる考え方が増えてきたことが分かります。



課題と感じられること・心配されること

の項目については、実施後も多くの教師が懸念していることが分かりました。しかし、とを除く項目では、実施後に心配されることが減っています。特に、「結果の扱いと公表の仕方に不安がある」、「評価が改善に結びつくか疑問である」と回答した教師が大きく減っています。



この事例から学ぶこと！

- 初めての試みでも、全職員が同一歩調で取り組んだこと。
- 子どもからの授業評価を経験することで、授業評価の持つ意義を感じる事ができたこと。
- 子どもの授業評価から自分の授業の課題をとらえる、改善策を見いだしたこと。
- 子どもの声に応え、授業改善に取り組んだこと。

この実践は、P D C Aのマネジメント・サイクルを生かした取組だと考えられますね。もう一度、取組のポイントを下表に示します。



ワンポイントアドバイス！

マネジメントの考えを取り入れた授業評価の進め方

授業改善を図る上で、あなたが重点的に取り組む課題は何ですか？

P プランを立てるために現状を分析します。(Plan)

<p>現状把握</p> <p>授業を振り返る(自己評価を行う) 他者からの評価を取り込みます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員相互による授業評価 ・ 児童生徒による授業評価 	<p>まず、自分の授業を謙虚に振り返ってみましょう。そこから、授業を進める上での課題が見えてきます。これは、誰かに見せるものではありません。自分自身のために行うものです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちに記入させる授業評価票をもとに、自己評価票を作成し、チェックします。 ・ 他者に授業を見てもらうことで、自分では気付かなかった良さを教えてもらうこともあれば、自分が良かれと思っていたことが、他者からすればマイナスに映っていることもあることに気がきます。 ・ 子どもが授業をどう受け止めているのか評価してもらうことで、教師の思いとの差異に気付くことができます。自分としてはやっているつもりなのに、子どもはそう思っていないことや、言われてみればそのとおりだというように、新たな気づきがあります。
<p>現状分析</p> <p>目標設定</p> <p>重点課題(目標)を設定する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価して明らかになった改善点、他の教員から指摘された改善点、児童生徒の授業評価から見えてきた改善点を整理します。 ・ 自己評価で意識したポイントと子どもの要求とが合致した項目を重点課題とします。 ・ 2～3項目の重点課題を設定します。たくさんの課題が見つかるかもしれませんが、それらを一度に全部解決していこうとするのは無理があります。優先順位を付けて、重点的に取り組んでいくことを決めていきます。

D 日々の授業の中で意識して取り組んでいきます。(Do)

<p>実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重点的に取り組むこと(改善すること)を児童生徒に伝え、できることから改善していきます。
------------------	---

C 評価をします。(Check)

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重点的に取り組んだ事柄の成果が上がっているのかどうか、子どもからの授業評価を行います。しかし、子どもによる授業評価は、毎時間行うというわけにはいきません。常日頃の振り返りはもちろん大切ですが、単元ごとや学期に一回などと決めて行うといいでしょう。
------------------	--

A 改善していきます。(Action)

<p>改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状把握時に行った、子どもからの授業評価と比較し、継続して取り組む点、新たに取り組む点を明確にし、実践していきます。
------------------	--

事例3 生徒の視点で取り組んだ授業改善への挑戦

【中学校】「分かる授業」、「達成感のある授業」の創造を掲げ、校内での授業公開を中心とした一人一授業研究会、生徒による学習全般の自己評価と授業の分かりやすさを生徒に判定させる試みを始めました。

授業改善を図るための教師たちの「挑戦」がスタートしました。

この中学校では、ここ数年間、生徒会の学習委員会が中心となり、「学習に関するアンケート」に取り組んできました。今年度は、5月下旬にホームルームの時間を利用し、「学習への取組」、「家庭学習」に関する自己評価と、授業に対する「思い」、「注文」を生徒たちがアンケートに書き込みました。自己評価に関するアンケート項目は、学習委員会の生徒が作成し、集計も委員が担当しています。アンケート項目の中には、「クラスの人と協力し合って、学習できるのでとても楽しい」、「進むのが早い教材があるので、もう少しゆっくりと授業を進めてほしい」など、先生に対する感想や注文を具体的に書く欄も設けられています。

1 「学習に関するアンケート」が授業改善につながらない理由

アンケートからは、「よい評価」も多い反面、無責任で、辛らつな感想や、教師の人間性に関わるような改善に生かされない要望等も出てきました。学校の全体的な傾向をと

学習に関するアンケート		(抜粋)
学習への取組		
チャイム着席		
ア	ほとんどできている	イ ときどきできない
		ウ できないことが多い
忘れ物		
ア	ほとんどしない	イ たまにする
		ウ よくする(多い)
授業中の挙手		
分からないところ		
家庭学習		
平日の平均学習時間(塾の時間は含めない)		
ア	ほとんどしない	イ 30分以内
		ウ 30分~1時間
エ	1~1.5時間	オ 1.5時間~2時間
		カ 2~2.5時間
カ	2.5~3時間	キ 3時間以上
塾(学習塾)に通っていますか		
ア	通っている(教科:)	回数 回/週
イ	通っていない	ウ その他()
家庭学習上の悩み		
ア	やる気がでない	イ 何をやったらいいのかわからない
ウ	根気がなく、すぐあきらむ	エ 難しくてわからない教材がある
オ	家の人が勉強に協力的でない	オ 部活などで疲れてすぐ眠くなる
授業について、日頃から感じていること、要望等があれば書いてください。		

らえるために行われるこのアンケートは、生徒の要望や感想を、教師の個人名を載せない形式にまとめ、全職員に配付します。教師の個人名が省かれてまとめられた結果からは、どの教師のどの授業に改善点があるのか、教師が自分のこととして振り返る材料にはならず、教師一人一人の授業改善につながりにくいものでした。何度となく、授業に対する「要望」、「意見」を書いてきた生徒も、自分たちの「思い」が伝わらないアンケートに、意義を感じなくなっていました。

この事例で、アンケートが授業改善につながらないと、教師、生徒の双方とも感じている原因には、次の点が考えられます。

- ・ 教師が自分の授業について、生徒から直接聞くアンケートではないこと。
- ・ 教師から「よい授業を進めていくためのアンケートである」という説明がないこと。
- ・ 生徒は、教師と共によい授業を目指すというイメージがもてないまま、アンケートを実施していること。
- ・ 教師への要望事項に対して、教師の個人名を出さない形式で集計するため、教師は生徒からの要望事項を自分のこととしてとらえることができない。そのため、評価が指導の改善に生かされないでいること。
- ・ 自分が出した要望によって、教員との人間関係が悪くなるのではないかという生徒の危惧があり、それらの配慮から無記名式の意見聴取としたこと。

2 新たな授業評価への挑戦

これまで実施してきたアンケートは、学校全体としての授業を評価することにはなっていました。しかし、教員個々の授業に対する評価にはなっていませんでした。これまでのアンケート結果を踏まえ、授業改善を進めるためには、それぞれの教師の授業を直接評価することで、授業の特徴や改善すべき点が明らかになり、評価が改善に生かされると考えました。

7月、全教員に対し、「生徒による授業評価に関する意識調査」を行いました。アンケートからは、「生徒が客観的に評価できるか疑問である」、「一方的な教師批判になる心配がある」という意見が噴出しました。しかし、A教諭の呼びかけに応じ、若手の教師3人が、自分の担当する教科で授業評価に挑戦しました。これまで生徒を評価する立場であった教師が、反対に自分の授業について生徒に評価してもらうことは、この学校の教員にとってまさに「挑戦」でした。

最初にA教諭が授業評価を実施しました。よりよい授業を目指したアンケートであることを生徒に示し、「1学期を振り返って」と題し、【学習への自己評価】、【先生への通信簿】の二つの観点で授業評価を行いました。

調査の結果、次頁の集計表に示すように、各項目とも「」「」との評価が大半を占め、自分の指導に自信を

それぞれの教科で、生徒による授業評価を行ってみませんか。



1学期を振り返って (抜粋)

このアンケートは、授業をよりよいものにするために皆さんに書いてもらうものです。感じたことを率直に書いてください。

【学習への自己評価】

チャイムと同時に授業に入る態勢に入っていますか。

授業の用具は忘れず準備できましたか。

ワークは、計画的に進め、きちんと提出できましたか。

：

【先生への通信簿】

先生の声の大きさ、話し方は聞き取りやすかったですか。

黒板の文字は見やすかったですか。

先生の説明の仕方はどうですか。

授業の進度(進み方)はどうでしたか。

早い 遅い

先生の授業は、興味や関心の持てる授業でしたか。

先生の授業は、力のつく授業でしたか。

さらによりよい授業を行うために、先生へのアドバイスがあったら書いてください。

もつことができました。

調査人数 3年全クラス 185人

その一方、授業の進度に関する点が、他の評価項目と比較して低いことが明らかになりました。自由記述にも、「試験の範囲を終了するのが試験直前なので、もう少し余裕をもって終了してほしい」との意見がありました。

調査項目			・速	×・遅
声の大きさ、話し方	137	43	3	0
黒板の文字	112	66	9	1
説明の仕方	118	58	7	1
授業の進度	75	90	12	8
授業への興味・関心	97	74	9	5
力がつく授業	109	71	4	1

また、「黒板の文字」「説明の仕方」「力がつく授業」のいずれの項目にも「×」を付けた生徒がただ一人いました。その生徒は、2学期に入っても相変わらず学習にまったく取り組めないでいました。そこで、授業評価に書かれたことについて、放課後、思い切って生徒に尋ねてみました。その生徒からは、先生が生徒の理解度を確認しないで授業を進めてしまうことや、他の生徒は分かっても自分には分からないことに対して適切な指導をしてくれないことへの不満などを聞かされました。

授業の改善に生かしたこと

- 1 テスト勉強に余裕をもって取り組めるように、授業にメリハリを付け、進捗に気を付けるよう心がけました。
- 2 配慮生徒に対し、机間指導の際に声を掛ける回数を多くし、個別支援を心がけました。

このように、話し合いを通して教師に抱いていた生徒の「思い」を聞きだし、声掛けの回数を多くしたところ、生徒のその後の授業態度に改善が見られました。その生徒は、どちらかという学力が低いことから、A教諭はこの生徒の評価能力に疑問を感じていました。しかし、記述した内容は、その生徒なりに感じた「正しい評価」であることが分かりました。A教諭は、この生徒には客観的な評価は難しいと自分が思いこんでいたことにも気付かされました。

生徒による評価には、楽しく学びたい、分かる授業をしてほしいという生徒の切なる願いが込められていることを改めて感じることができました。



英語科のB教諭は、声の大きさや板書の仕方、授業での重要ポイントの押さえなど、当たり前にかけていると思っていたことができていることに気付かされました。B教諭へのアンケートの回答には、「少し早口で、たまに聞き取れない」、「本文を全員で音読練習した後、代表何人かで読ませてほしい」といった声が寄せられました。A教諭を含めた4人の教師は、書き込まれた生徒の「注文」を参考にそれぞれに自分の授業を振り返り、改善策をレポートにまとめました。そして、評価の生かし方などについて検討会をもち、授業の改善につなげる努力を続けました。

C教諭は、夏季休業前に実施した授業評価の結果を、2学期当初にクラスに公開しました。また、生徒の要望を受けて、これから意識的に改善していく点を生徒に伝えました。生徒も気軽に注文を言える雰囲気が出てありがたいと話していました。その後は、互いにより授業にしようという意識が、生徒と教師の双方に高まっています。4人の教師は、生徒にとってよい授業を展開することが最終的に信頼される教師、信頼される学校につながると信じ、子どもたちとの対話を続けています。

この事例から学ぶこと！

- 先導する(核となる)教員が自ら率先して授業評価を行い、そのよさを実感できたこと。
- 授業について校内の同僚同士で話し合い、実践を見つめ直すことができたこと。
- 授業評価の実施で気付いた「気になる生徒」に声をかけ、その生徒の「思い」を聴くことで、生徒との信頼関係の糸口を探りあてることができたこと。



「生徒や保護者による授業評価をやってみましょう。」と呼びかけても、生徒たちや保護者から評価されると考えると、即座に実践するのは、なかなか難しいと思います。アンケートの冒頭にあるように、お互いに、よりよい授業をつくるためにアンケートをとるということを、教師と生徒双方が理解し合うことが大切です。

若い先生のパワーや生徒のためによりよい授業を行いたいという思いを、経験豊富な教員が認めて育てていく環境が、互いの授業力向上につながってゆくのだと思います。

下の表は、教員用授業評価(自己評価)と同一項目の児童生徒による授業評価の一例です。自己評価と、児童生徒による授業評価を実施することで、各自の授業の改善点を把握することができます。こうして、重点的に取り組む課題(目標)を設定しましょう。

教員用授業評価(自己評価)の例

4 よくしている 3時々している 2あまりしていない 1ほとんどしていない

	番号	評価項目	自己評価			
指導技術	1	はっきりと、聞き取れるように話している。	4	3	2	1
	2	丁寧に、見やすい大きさに文字を書いている。	4	3	2	1
	3	板書や掲示物は、生徒が学習内容を理解するのに役立っている。	4	3	2	1
	4	子どもが話を聞く態度が整ってから、指示するようにしている。	4	3	2	1
	5	丁寧に分かりやすい説明や発問、指示をしている。	4	3	2	1
	6	考える時間や活動する時間を十分とっている。	4	3	2	1
	7	お互いの考えを比較できるよう、子どもの意見や考えを板書したり掲示したりしている。	4	3	2	1

児童生徒による授業評価の例

4 よくしている 3時々している 2あまりしていない 1ほとんどしていない

番号	聞きたいこと	評価			
1	先生は、はっきりと、聞き取れるように話している。	4	3	2	1
2	先生は、ていねいに見やすい大きさに文字を書いている。	4	3	2	1
3	先生が黒板に書いたことや黒板にはったものは、学習内容を理解するのに役立つ。	4	3	2	1
4	先生は、みんなの話を聞く態度が整ってから、指示をしている。	4	3	2	1
5	先生の授業中の説明や問いかけはていねいで分かりやすい。	4	3	2	1
6	考えたり活動したりする時間がじゅうぶんにある。	4	3	2	1
7	先生は私たちの意見や考えを黒板に書いたり、紙に書いてはったりしてくれる。	4	3	2	1

事例4 授業評価によって明らかになった改善の視点

【中学校】生徒や保護者による授業評価を初めて実施したところ、それまでは漠然としか把握できなかった生徒の学習状況や、教師の指導に対する生徒の反応などが明らかになりました。一方で、評価票や質問項目についての改善点も明らかになりました。これをもとに、評価票の様式の改善や、学校課題による視点を明確に意識した研究授業及び授業研究などの取組みに、教科の枠を超えて取り組んでいます。

1 生徒による授業評価と評価票の改善

6月に開いた校内研修では、「学力向上」のために、「教師の授業力の向上」、「授業以外での取組の充実」の二つの課題を挙げ、それぞれの具体的な取組について話し合いました。その結果、「生徒による授業評価票」を作成し、校内研究授業の際に授業評価を実施することになりました。

多くの教員が、授業評価を「やってみたい」という前向きな姿勢を示し、「これからは、生徒の意見を聞きながら授業づくりをしていくことが大切である」という共通の認識をもって実施しました。

(1) 実施の方法

- ・ 時期...1 学期末と研究授業終了時
- ・ 匿名によるアンケート方式。後に記名でも匿名でもよいこととした。
- ・ 趣旨の説明...初めての実施時、以下の趣旨を説明し、評価項目を一つ一つ読み上げながら行った。

授業をよりよいものに、生徒と教師とともに作っていくために実施すること。 率直に書いてほしいこと。
マイナス評価をしたとしても、成績に影響しないこと。 嫌なことを書いて悪いと思わず書いてほしいこと。

(2) 評価表の様式

次の図1は、7月に使用した最初の評価票です。

生徒による授業評価票(例)

図1

授業についての意見を聞かせてください
このアンケートは、授業をよりよいものにするために皆さんに書いていただくものです。授業を振り返り、感じたことを率直に書いてください。 ()学年 教科()男女 平成18年()月()日

1 この授業に取り組むあなたの姿勢はどうか。
意欲的に参加している まじめに参加している ← あまり集中できない やる気がもてない
または と答えた人は、その理由を書いてください。()

2 この教科に関して家庭でのあなたの学習状況はどうか。
予習復習などをきちんとしている まあまあしている
たまにはしている ← ほとんどしていない

8 一人一人への指導はどうか。
分からない時に教えてくれる ← いろいろな友だちの考えを大切にしている
先生の言葉でやる気がアップした 意見や質問が言いやすい
その他()

9 全体としてこの授業の満足度はどの程度ですか。
非常に満足である 満足である ← どちらでもない
やや不満である 非常に不満である の理由()

10 授業に対する要望があれば書いてください。授業に対する要望があれば書いてください。

これにより、それまでは漠然としか把握できなかった、生徒の学習への取組の様子や、教師の指導が生徒にどのように受け取られているかなど、様々な実態がある程度把握できました。

一方で、結果を分析する際に、この評価票では、生徒が選んだ数字と選択肢の文言を逐一照合しなければならず、煩雑で不都合であると分かりました。授業評価を実施する際の課題の一つに、「評価時間の確保」がありましたが、結果の分析に時間を要したという点で、回答の記入方法を改善する必要があることが分かりました。また、この中学校では、学校課題として、「確かな学力」、「個に応じた指導」、「指導と評価の一体化」の三つを掲げて取り組んでいます。この中で、「個に応じた指導」に関する質問項目（「8 一人一人への指導はどうですか。」）では、複数の選択肢の中から一つしか選べないため、それぞれの選択肢に関する状況が曖昧なままになってしまいました。そこで、9月に使用した評価票では、図2のように数値を で囲む様式にして、評価結果を視覚的に判別しやすくするとともに、「個に応じた指導」に関する質問項目を細分化して、より具体的な状況を把握できるようにしました。

生徒による授業評価票（例）

図2

授業についての意見を聞かせてください		(抜粋)			
このアンケートは、授業をよりよいものにするために皆さんに書いていただくものです。授業を振り返り、感じたことを率直に書いてください。					
(3) 学年 教科(国語) 男女 平成18年(9)月()日					
[4 とてもよい 3 少しよい 2 あまりよくない 1 よくない]					
数字を で囲み、()内には、その内容について具体的に書いてください。					
1	この授業に取り組むあなたの姿勢はどうですか。 (先生の話をよく聞くことができました。)	④	3	2	1
2	この教科に関して家庭でのあなたの学習状況はどうですか。 ()	4	③	2	1
8	分からない時に教えてくれますか。 (ヒントを出してくれて、考えさせてくれるところがよいです。)	④	3	2	1
9	いろいろな友だちの考えを大切にしていますか。 (自分と違う考えが出ると参考になります。)	4	③	2	1
10	先生の言葉でやる気がアップすることがありますか。 (難しいことでも勉強してみようと思います。)	④	3	2	1
11	意見や質問が言いやすいですか。 (質問するときも恥ずかしくありません。)	④	3	2	1
12	全体としてこの授業の満足度はどの程度ですか。 (分かりやすくとてもよいです。古典が好きになりました。)	④	3	2	1
13	授業に対する要望があれば書いてください。 古典の宿題のプリントや復習に役立つプリントがあると助かります。				
どうもありがとう					

生徒による授業評価(アンケート)から、気付かなかった自らの課題が明らかになりました。課題として指摘された内容については、付箋を貼るなどして忘れないようにしたり、生徒に還元できることは、さっそく授業で返したりするように心がけました。

ただ、「その時は心がけたが、普段の授業スタイルにいつの間にか戻ってしまった。」というような反省も聞かれました。

授業の改善に生かしたこと

「集中できない」という回答した生徒には、頻繁に声をかけ、具体物を準備するよう心がけましたよ。

課題に挙げられた項目については、同僚の先生にそのやり方を聞きました。とても参考になりました。

私は、机間指導の頻度を多くしたり、問題演習での個別指導を増やしたりしました。

板書が分かりづらいと回答した生徒が多かったので、板書計画を事前にノートしておくようにしました。そのため、板書の無駄がなくなったと思います。

授業評価を実施して

教師が、「生徒とともに授業づくりを進めていくために、あなたの声を聞かせてください。」という姿勢で取り組もうとする授業評価の趣旨を、生徒もよく理解し、率直に記述してくれたのだと思います。それを実感できた教師も、生徒のために何をすべきか考え、改善に取り組んでいけたのですね。生徒も、自分たちが書いたことを教師が生かして、授業を進めてくれているという実感をもつことができているのですね。



ワンポイントアドバイス！

◇ 授業評価で気付いたことでも、「当座は心がけたが、やがて普段の授業スタイルに戻ってしまった。」という反省も聞かれました。その際は、「先生、前の教え方に戻っています。」と、子どもたちからいつでも指摘ができ、それに対し教師が、「ごめんね、つい重要ポイントだと教えることに夢中になっちゃって。また、気付いたら言ってね。」というように、教師と生徒が授業中にでも言い合える人間関係づくりのよい機会としたいですね。

2 保護者による授業評価と評価票の改善

この中学校では、授業参観の際に保護者による授業評価にも取り組んでいます。授業の感想を記入する欄を設けた用紙を保護者に配付し、授業後に自由に記述してもらうようにしました。当初、この試みでは、評価票から直接得られた成果はありませんでしたが、評価票以外にも保護者の声を授業に反映するヒントが得られたり、評価方法の改善の視点が得られたりするなどの副次的な成果がありました。

1学期の授業参観時、保護者からの授業についての意見を聞く感想用紙には、何の記述もありませんでした。そこで、保護者による授業評価の実施について、実施上の問題点について担当で話し合いました。



さらに、どのような点を改善していけば、保護者からも授業改善のヒントをもらえるかということについて、検討しました。



検討した結果を生かして、2学期の保護者会には、授業者と担当教科、授業のポイントを記載した文書を事前に保護者に配付しました。その文書には、「子どもたちのため、授業をよりよくするために、参観された授業について皆さんのご意見をお聞かせください。」と書かれていました。

3 生徒や保護者による授業評価を実施して

また、生徒や保護者による授業評価を初めて実施し、試行錯誤しながら実践を重ねたA教諭は、次のように述べています。「初めての試みなので、当然うまくいくことばかりではありませんでしたが、自分の授業を子どもたちがどのように感じているのかを、ある程度数値化して客観的にとらえることができました。また、当初考えていた以上に、生徒からよい評価と温かいメッセージを受け取り、生徒から元気と勇気をもらった思いです。」

この中学校の教師が、生徒による授業評価を実施して感じたことや、今後継続していく際に留意しなければならないと感じた点を、以下に示します。

ティーム・ティーチングで個への対応を十分しているつもりであったが、実際は「遅れがちな生徒への対応」が中心で、「十分満足」レベルの生徒に対しては配慮していないことに気付かされた。「もっと早く進めてほしい」、「手を挙げて発表できる雰囲気してほしい」など、さらに個への対応が必要だと分かった。

教師が謙虚な姿勢を示すことで、自分自身も向上でき、生徒も信頼してくれるようになるのではないかと思った。

- × 何度も行うことでマンネリ化してしまう。いつどのくらい行ったら効果的か。また、変化が分かるにはある程度の時間が必要。
- × 生徒への返し方が課題。例えば、「授業を進めるスピード」「分かりやすさ」など、個人差のあるものをどう改善していくか。評価させたからには、改善していかなければ、単なる実態の把握に終わってしまう。
- ◆ マンネリ化しないことが大切。生徒からは「評価することは、生徒にとっても教師にとってもよいことだと思う」という意見があった。その思いを大切にしていくためにも、教師、生徒ともにマンネリ化しないような方法・工夫が大切である。
- ◆ 一人では継続して実施していくには心細い。互いに話し合ったり励まし合ったりできる場や教師間の人間関係を構築していくことが、継続につながる。

は、授業評価の効果・期待感

×は、授業評価を実施するうえで課題と感ずること

は、実施するうえで留意しなければならないこと

この事例から学ぶこと！

- 生徒による授業評価を始めるにあたって、授業評価の趣旨をよく生徒に説明して実施したこと。
- 授業評価を進めるにあたって、よりよい授業評価の在り方について常に話し合い、改善していったこと。
- 保護者に授業への興味・関心をもってもらうことと、保護者からの意見を聞くことを通して、自分の授業を見直そうとする試みを始めたこと。

生徒や保護者からの授業評価を行うことに対して、教師は不安があると思います。また、評価が低い項目について明らかにし、生徒に今後の改善点を説明することは、教師にとってかなり勇気のいることですし、今まであまり行われてこなかったと思います。だからこそ、やる意義があるのだということを、実践を通して理解していくことができたことが何よりの成果です。



事例5 学校評価に授業評価を位置付けた取組

【中学校】教員の授業力向上を図る一つの方策として、学校評価に授業評価を位置付けて実施しています。教員、生徒、保護者等による授業評価を行い、P D C Aのサイクルによる授業改善に取り組んでいます。評価結果と改善策については、定期的に発行する「学校評価だより」などで周知を図っています。評価項目の中には、教員と他の評価者の結果が大きく異なるものもあり、授業評価の実施が授業の振り返りのよい機会となっています。

この中学校では、「地域の信頼に応える学校づくり」をキーワードとして、教員自身の自己評価だけでなく、外部評価を活用することによって、授業力の向上に努めています。次の図1は、年間の授業評価の流れを示したものです。

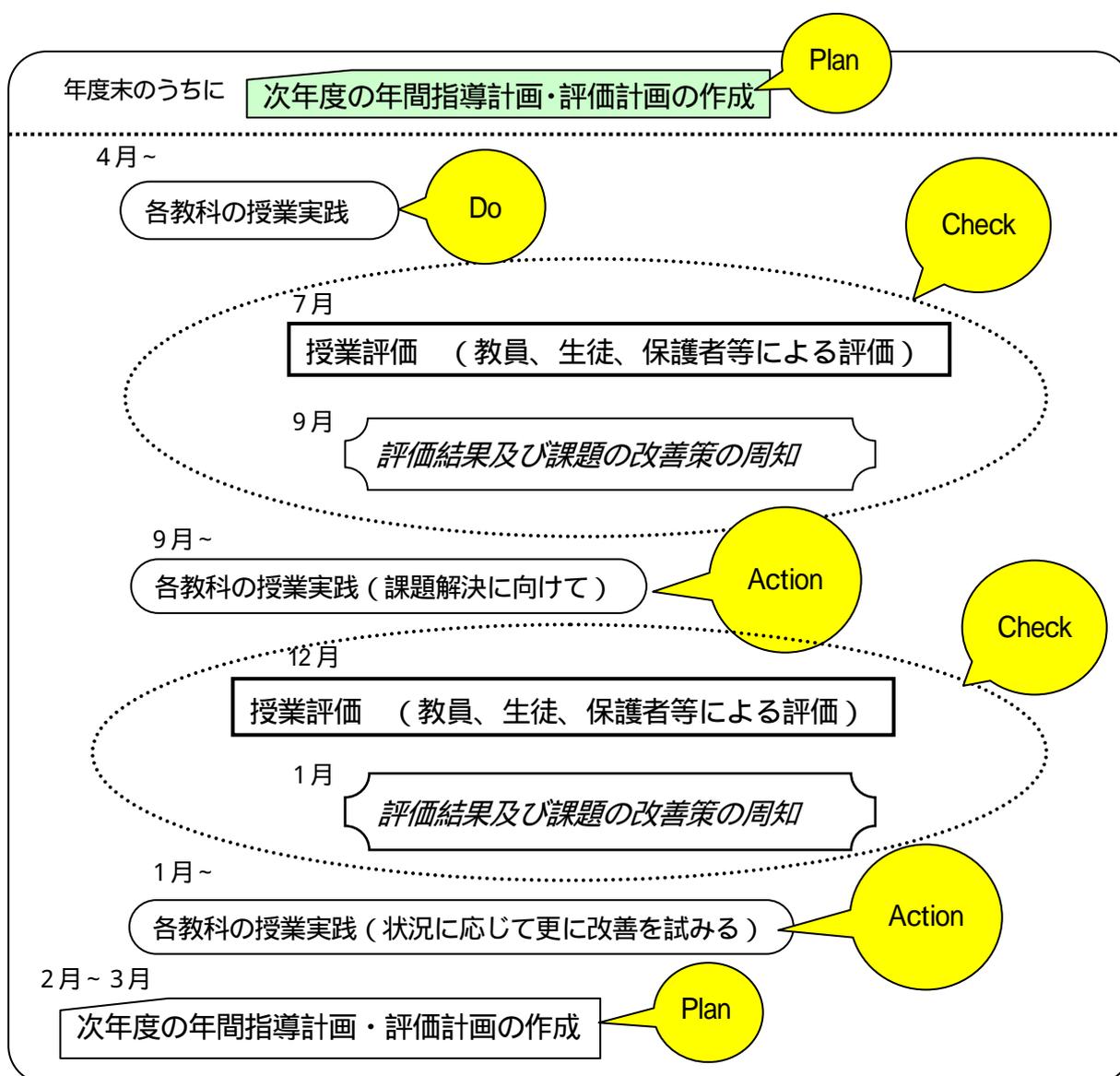


図1 授業評価の流れ

1 授業評価の実施

図1にあるように、この中学校では、年間2回の授業評価を実施しています。

「授業評価」は、1学期の授業について振り返るために7月に実施し、その集計・分析・課題把握を夏季休業中に行います。その後、9～10月の職員会議で2学期の授業改善に向けた課題解決のための重点目標や方策について話し合い、その結果を、「学校評価便り」で生徒や保護者に知らせます。

2学期には、「授業評価」の結果を踏まえて、各教科で改善を図りながら授業を行い、12月には「授業評価」を実施してそれまでの授業を振り返ります。

このように、年間2回の授業評価を取り入れることによって、PDCAの大きな流れの中で、年間を通して授業改善を図っています。

年間を通してPDCAのサイクルで授業評価を行うから、授業の改善につながるわ！



2 授業評価票の作成

次に示すのは、教師用、生徒用、保護者用の3種類の授業評価票の例です。評価項目については、同じ内容の項目であっても、評価者に応じた分かりやすい表現にします。また、評価については、肯定的な回答と否定的な回答の割合が分かるように、A～Dの4段階評価とします。

(1) 教師用授業評価票(例)

授業評価票 <教師の自己評価用>

次の評価項目について、A～Dのうち、該当するものを で囲んでください。

A(そう思う) B(ややそう思う) C(あまりそう思わない) D(そう思わない)

1	一人一人の学習達成度の把握に努め、基礎的・基本的な学習内容の定着に努めている。	A B C D
2	生徒の実態に応じて、個別指導やグループ学習、TTなど、個に応じた指導方法の工夫に努めている。	A B C D
3	生徒の学習に対する興味・関心・意欲を高めるため、教材・教具の工夫や開発に努めている。	A B C D
4	生徒一人一人に目配りをし、意見を述べたり質問をしたりしやすい雰囲気づくりに努めている。	A B C D

(2) 生徒用授業評価票 (例)

授業評価票 < 生徒用 >

これは、毎日の授業をよりよいものにするために行うアンケートです。みなさんの率直な意見を聞かせてください。次の各質問について、A (そう思う) B (ややそう思う) C (あまりそう思わない) D (そう思わない) のうち、該当するものを で 囲んでください。

1	先生の説明は分かりやすく、理解しやすい。	A	B	C	D
2	先生は、授業中、分からない所をていねいに教えてくれる。	A	B	C	D
3	授業中の活動 (学習) がおもしろいので、興味がもてる。	A	B	C	D
4	授業中、意見を述べたり質問をしたりしやすい。	A	B	C	D

(3) 保護者用授業評価票 (例)

授業評価票 < 保護者用 >

これは、現在の 中の授業について、保護者のみなさんからご意見をいただき、今後の授業改善に役立てるためのアンケートです。次の各質問について、A (そう思う) B (ややそう思う) C (あまりそう思わない) D (そう思わない) のうち、該当するものを で 囲んでください。

1	教師は、生徒一人一人をよく理解して、分かりやすい授業を行っている。	A	B	C	D
2	生徒の実態に応じて、指導形態 (個、ペア、グループ、複数の教師による協同授業など) を工夫し、個に応じた指導を行っている。	A	B	C	D
3	生徒の学習に対する興味・関心・意欲を高めるための教材・教具の工夫や開発を行っている。	A	B	C	D
4	授業中、意見を述べたり質問をしたりしやすい雰囲気になっている。	A	B	C	D

3 授業評価の生かし方

生徒や保護者に授業評価をしてもらうことで、様々な気づきを得ることができます。例えば、教員の評価結果と生徒や保護者の評価結果を比較してみると、大きく異なることがあります。その原因等を分析することで、後の指導に生かすことができます。次の表は、評価結果の一部です。ここからどんなことが分かり、この結果をどのように生かすことができるのでしょうか。

評価者	評価項目	A	B	C	D
教員	生徒が「分かる授業」の実践を目指して、授業の工夫・改善に努めている。	25.8%	66.1%	1.6%	0.0%
生徒	授業は分かりやすく、理解しやすい。	23.1%	50.6%	20.9%	3.0%
保護者	教師は、生徒一人一人をよく理解して、分かりやすい授業を行っている。	9.2%	51.5%	22.2%	2.0%

ア イ

表中の質問は、いずれも教師の「分かる授業」の実践状況について尋ねたものです。それぞれの結果をみると、次のような評価者間のずれがあることが分かります。

- ア 約9割の教員が肯定的な回答（A「そう思う」+B「ややそう思う」）をしているが、生徒では約7割、保護者では約6割となっている。
- イ 否定的な回答（B「あまりそう思わない」+C「そう思わない」）をしている教員はほとんどいないが、生徒や保護者では約2割となっている。

このように、授業評価を行うことで、教員、生徒、保護者の意識のずれを認識することができます。実は、このことが授業評価を行うねらいの一つでもあるのです。

「分かる授業」をしていると思うんだけど・・・。
生徒や保護者との意識のずれは、ということなのだろう？



このような意識のずれがみられたときこそ、その原因等を分析・考察することが大切です。この事例では、教員が謙虚に自分の授業を振り返り、改善を図る必要があるかも知れませんが、その際、生徒の率直な意見を聞いてみるのもよいでしょう。一方、保護者の評価結果については、実際に授業を見る機会や学校で行われている授業についての情報などが不足していることが原因とも考えられます。



これからも、「分かる授業」を目指してがんばるぞ！

そこで、この中学校では次のような取組を始めました。

「授業参観」及び「自由授業参観」の実施

保護者に授業の様子をもっと知ってもらうために、年3回の授業参観、2日間の自由授業参観を実施しました。特に、自由授業参観の2日間については、保護者が自由に授業を参観できるようにし、参観後の感想をもらうようにしました。

「授業評価便り」による情報発信と意見聴取

「授業評価便り」に、各教科でどのような授業が行われているか、授業評価からみえた課題解決のためにどのように取り組んでいくかなど、積極的に情報を発信するようにしました。さらに、その便りにコメント欄を設け、保護者がいつでも意見を学校に伝えることができるようにしました。

このように、授業評価は、教員と生徒、保護者とのコミュニケーションを図るきっかけにもなります。そして、取組を継続していくことが「地域の信頼に応える学校づくり」につながっていきます。

この事例から学ぶこと！

- 学校評価に授業評価を位置付け、1年間のPDCAのサイクルを確立していること。
- 生徒や保護者による授業評価を実施していること。
- 評価結果から明らかになった課題の解決に向けて、具体的な方策を立て、実践していること。

ワンポイントアドバイス！

◇ 授業評価には、日常的に行う評価と総括的に行う評価とがあります。日常的な授業評価には、「児童生徒による授業評価」、「教員相互による授業評価」、「保護者、地域住民、学校評議員等による授業評価」が考えられます。

表にまとめると次のようになります。

種 類	評価者	評 価 時 期	評 価 内 容 等	
日常的な授業評価	児童生徒及び授業者による授業評価	授業者 児童生徒	単元(題材)の中での重点時間 単元(題材)終了後	具体的な手立ての有効性
	教員相互による授業評価	他の教員 外部講師	研究授業及び普通の授業	学校としての改善策の有効性
	保護者、地域住民、学校評議員による評価	保護者 地域住民 学校評議員	年数回の公開授業や授業参観	授業の重点目標 授業における児童生徒の様子等
総括的な授業評価	教員 児童生徒	年2回程度(夏季休業前、12月等)	授業の重点目標 授業全般にわたって	

授業評価を学校評価に位置付け、総括的に行う際には、授業評価の結果をすべて数値や統計的な処理をして公表することに力を注ぐよりも、この学校のように、数値から明らかになったよさや課題についてコメントし、検討したことや具体的な改善策を生徒や保護者等に返すことが大切です。

「授業評価」を生かした授業の改善は、できることから

「人間性を改善する」などということは、要求されても難しいことですが、「聞き取りやすい大きさの声で話す」ということなら、心がけ次第ですぐにでも改善できます。要求レベルの低いことでも、まずはできることから改善することが大切です。

そして、改善しようとすることを子どもたちや保護者にきちんと伝えることも大切です。「先生が自分の言ったことを聞いてくれた、取り入れてくれた」、「自分たちのために、先生がいい授業をしようとしてくれている」と子どもたち一人一人が感じることができることが何よりも大切なのです。授業は、「教師と児童生徒とでつくっていくもの」という意識を教師が持つことが大切です。授業評価を行っても、何も変わらないというのでは、子どもたちの理解は得られません。授業評価によって、授業が改善されることにより、子どもたちからの信頼が得られものだと思います。



調査研究協力校の実践

2 同僚性を築く校内研修 - 教員の学び合う体制づくり -



授業研究会は、授業を共同の考察の対象として、参加者それぞれの発見や考察を交流して学びあう機会である。自分とはことなった見方や意見、さらに参加者から出される代案を知り、自分の考えや案とつきあわせ、その相互触発をとおして自分を変えていくプロセスである。そこには、人や文化と出会い、自分の視野をひろげ深めていく楽しさがある。 2

事例 6

教員の学びを進めるOJT

【小学校】学年ブロックごとの話し合いを通して、それぞれ興味や関心のある事柄をテーマに設定し、研究に取り組みました。計画の企画・立案、外部講師の選定から交渉、派遣申請の起案や送付など、手続きもすべてブロックの担当者の手で行いました。管理職のねらいは、仕事を通じた職場での教育訓練であるOJTです。教員一人一人にとっては、ボトムアップ型の校内研修となっています。

企業では、「仕事を通じた職場での教育訓練」をOJT (on-the-job training)と呼んでいますが、この学校では、それをもう一歩進めた「仕事を通じた学び」まで高めている校内研修に取り組んでいます。

時期	研究の流れ
5月上旬	研究テーマの設定、計画の企画・立案
5月中旬	講師選定、依頼手続き
6月上旬	第1回研究会（講師による授業と講話）
6月下旬	研究授業の指導案検討
6月下旬	第2回研究会（研究授業・授業研究）
11月上旬	研究授業の指導案検討
11月中旬	第3回研究会（研究授業・授業研究）
11月下旬	研究のまとめ

ブロックごとの研究テーマの設定



「読書へのアニメーション」という方法があるって聞いたけど...

中学年ブロックのテーマは理科の指導法についてだよ。

低学年の子を一人で本を読めるように育てたいわ。子どもたちの読書活動を活性化させるにはどうしたらいいかしら。

私も聞いたことがあるけど知らないな。みんなで勉強しましょう。

OJTとは、実際の仕事を通じて、必要な技術、能力、知識、あるいは態度や価値観などを身に付けさせる教育訓練のことです。この小学校では、個人の可能性や潜在能力を引き出すために、教師自身に考えさせる研修をすすめています。管理職は、個々の教師が自らの研修を企画する力、その研修を運営する力、講師等と交渉する力、ブロック内の教師と調整する力を身に付けさせたいと考え、校内研修を進めています。教師にとっては、自分たちの興味・関心に応じて、研修の内容、メニューなどを企画・運営できるので、ブロック内の教師が無理のない研修を心がけることができ、好評を得ています。

この研修を行うにあたっては、子どもたちの実態を把握して、その実態に基づき、必要な研修の候補を挙げ、一年間（場合によっては、複数年）進めていく研修を選択していきます。自らの興味・関心のある研修、子どもたちの学びに生かせる研修でなければ、長続きはしないという信念からです。自らの興味・関心に基づいた研修を企画し、構築していくこの研修は、ボトムアップ型の研修ともいえます。これにより、教師一人一人の研修への参加意欲が高まっています。

ここでは、低学年ブロックが、総合教育センターの指導主事を講師に、「読書指導」に関する研修を企画・運営していった実践を紹介します。

低学年ブロックの研究テーマ
「夢をはぐくむ読書活動～『読書へのアニメーション』の実践を通して」

研究計画の企画・立案

総合教育センターの指導主事が、学校図書館部会で講師を務めたそうだよ。

研究会に3回とも来ていただいて、指導助言していただけたといいわね。

実際に子どもたちを相手に実践していただけるかどうか、依頼してみましょうか。

OKだったら派遣申請を出しますね。書くのは初めてだけど、これも勉強ですね。

講師派遣依頼、派遣申請の手続き

・講師依頼、派遣申請等も学年ブロックの担当者が行いました。

第1回の研究会では、講師が1年生を対象に「読書へのアニメーション¹⁾」の手法を生かした授業を展開しました。担当ブロックの教師は、授業を参観し、その実際を学びました。その後、全校の教員が参加して、講話を聞きました。

第1回研究会

講師(総合教育センターの指導主事)と学級担任との連携による授業実践



なるほど、言葉や絵のカードを使うやり方もあるのね。

授業の後、教室の本棚から本を取り出して読んでいる子がたくさんいてびっくりしたわ。

こんなに子どもたちがワクワクと楽しそうに学習するなんてびっくり。しかもすごい集中力。「読書へのアニメーション」って素晴らしい手法ね。私もやってみたいわ。

総合教育センターの指導主事による講話と実演

参観者は、講師の分かりやすい話の実演が加わることで、より具体的に理論と手法について理解することができました。低学年ブロックの研修会でしたが、講話には全ての教員が出席しました。同様に、他のブロックで講師を招いて講話を企画した際も、全ての教員が出席して研修を深めています。

1) 読書へのアニメーション：スペインのモンセラ・サルトが考案した読書指導のメソッド。

第1回目の研究会で学んだことをもとに、担当ブロックの教員は、関連する書籍を購入し、各自がそれぞれに学習していきました。

第2回の研究会は、「読書へのアニマシオン」の手法を生かして実際に研究授業を行いました。

第2回研究会

研究授業 1年国語「いろいろなくちばし」

- ・ 学級担任による授業実践



場面の写真と言葉のカードを組み合わせる方法を取り入れたら、子どもたちはよく考えよく話し合っていたわ。

何が書いてあるかを読み取るだけでなく、どう書いてあるかを考えさせるのにふさわしい方法ね。

授業研究（低学年ブロック研究会）

研究授業後、学年ブロック3名の教師と、総合教育センターの指導主事で授業研究を行いました。

第3回の研究会では、第2回同様、研究授業を行いました。全職員が授業を参観し、児童の反応、表情、つぶやきなど児童の反応に対する授業者の対応を中心に見取っていき、気付いた事柄を付箋紙に記録していきました。

第3回研究会

研究授業 2年国語「お話、大すき」

- ・ 学級担任による授業実践

こっちが先だよ。

そうだよ、
そうだよ。



そうかな？
僕は反対だと思っ
うよ。

お話の順番を考
えて読ませるのにふ
さわしい方法だと実
感したわ。



付箋紙は、児童の活動中のつぶやきや話し合いの様子など、気付いたことを中心に記録していきました。

授業研究「対話リフレクションによる授業研究」

研究授業後に、授業者と参観者全員による授業研究会を開きました。児童の反応に視点を当てて、参観者が参考になった点や疑問点などについて、研究授業の際に付箋紙に書いておいたものを、黒板に貼り出しました。授業研究では、付箋紙に書かれた内容について、授業者と参観者との対話を通して振り返りました。

実は、同じ作者、同じ挿絵画家の絵本が二種類あるんですが、授業で使った方は、その場面の絵が文章の内容を表していなかったんです。

別の絵本を使った方がよかったですね。



さんは、どうしてこの場面で首をかきげたんでしょうね。

授業の振り返りができ、今後の授業に生かせる話し合いができたわね。



フランクに話し合えて、授業者も参観者も学び合いのあるやり方ね。子ども一人一人の思いや考えを見取ることの大切さや、教材研究の在り方を学びました。

この実践から学ぶこと！

- ブロックごとに教師が自ら研究テーマを設定し、研究の企画・立案、講師の選定、交渉、委嘱等をすべて自ら行うという主体的な取り組みであること。
- 他のブロックの研修に、興味や必要に応じて自由に参加できる、開いた研修であること。
- 職員室に「読書へのアニメーションコーナー」を作るなど、研究・研修の成果が授業改善の方策に具体的に結びついていること。

この学校の特徴は、教師が必要とする知識や技術を実際の授業を通して学んでいくOJT的な取組をしていることです。学年ブロック教師の興味・関心のある研究テーマを設定できるので、教員の研究に対する参画意識（モチベーション）が高く、積極的に取り組んでいます。また、教員はこの取組を通して、自らの研修を企画する力、その研修を運営する力、講師と交渉する力、学年ブロック内の先生方と調整する力を身に付けています。



事例 7

模擬授業を取り入れた授業研究会

【小学校】ブロック別（低学年、中学年、高学年のブロック）による授業研究会、学校全体で行う授業研究会、それぞれの特長を生かした校内研修を実施しています。特にブロック別の授業研究会では、意見を述べた教員が教師役、他の教員は児童役となり、即興で模擬授業を行います。そのため、単なる意見交換ではない、具体的な気付きのある話し合いになり、教員のよい学びの場となっています。

この事例では、校内研修として、年度内に全教員が学校の研究主題に基づいた授業を公開し、授業研究会を行っています。研修は、外部講師を招いて学校全体で行う研修と、ブロック別に行う研修とがあり、それぞれの特長を生かした研修を通して、教員が互いに学び合い、授業力の向上に努めています。

ブロック別に行う研修

1 授業者の決定

- ・（学校全体で行う研修での授業者は除く）全教員が必ず公開授業を行う。
- ・各授業者の授業公開の時期を、年間計画に位置付けておく。

ここがポイント

2 学習指導案の作成

- ・授業者が作成する。

ここがポイント

3 研究授業

- ・研究主題に基づいた、工夫ある授業を行う。
- ・当該ブロックの教員のみが参観する。

4 授業研究会

- ・ブロックごとに行う。
- ・意見を述べた教員は、その場で模擬授業を行う。

ここがポイント



ここでは、大切なポイントが三つあります。

一つ目は、「実践が授業力を向上させる」という考えから、必ず全教員が1回は授業を公開し、授業研究会を行うということです。ブロック別研修では、年齢が近い児童を教えている同僚の意見から、多くの示唆を得ることができます。

いろいろな先生方の授業を参観できるから、勉強になるわ！



二つ目は、学習指導案の作成を授業者に任せるということです。全教員が公開授業を行うため、ブロック内で学習指導案を作成しようとすると、

各教員の負担感が増し、授業を公開することに消極的になりかねません。そこで、授業者が作成する学習指導案は略案でもよいこととし、授業の実践と授業研究会での振り返りを大切にしています。



ブロック別では、自分の公開授業のときだけ学習指導案の作成をすればいいから、負担は少ないわ！

三つ目は、授業の改善点について意見を述べた教員が、その場で模擬授業を行うということです。ブロック別研修では、授業研究会の参加者が少人数であるため、意見を述べやすい雰囲気になり、率直な話し合いができます。さらに、「意見を述べたら即実践」という考えから、意見を述べた教員が教師役、その他の教員が児童役となり、模擬授業を行います。こうして、模擬授業がまた材料となり、議論が深まって効果的な授業研究会になります。このようにすることで、教員間の人間関係も醸成され、よい雰囲気での授業研究を行うことができます。



模擬授業の様子

模擬授業はとても役立つわ。改善案だと思って意見を述べても、実際にやってみるとうまくいかないときもあるしね。意見を言うだけでは分からない、いろいろな気付きがあるわね。



学校全体で行う研修

- 1 授業者の決定
 - ・低・中・高学年のブロックごとに持ち回りで授業者を選出し、年3回行う。
- 2 学習指導案の作成
 - 担当学年で検討会を開き、原案を作成する。
 - 外部講師及び全教員による全体会を開き、担当学年が作成した原案を検討する。
 - 全体会で検討された原案を、担当学年で再検討する。
- 3 研究授業
 - ・研究主題に基づいた、工夫ある授業を行う。
- 4 授業研究会
 - ・全体会での振り返り。
 - ・外部講師からの指導・助言。

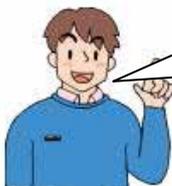
ここがポイント

ここがポイント



ここでは、大切なポイントが二つあります。

一つ目は、年間を通して同一の外部講師を招聘していることです。そうすることで、講師に学校の研究主題をよく理解してもらい、研修会のねらいに沿った指導をしてもらうようにします。年3回行う学校全体での研修時はもちろん、その他の時期にも必要に応じて連絡を取り、適宜、指導を受けることによって授業力の向上を図っています。



外部講師の指導は、的を射ていて分かりやすいから、すぐに授業に生かせるなあ！

これも、年間を通して指導をお願いしているから、学校の状況をよく理解してくれているからだと思うよ。

二つ目は、学習指導案の検討を全教員で行うことです。これは、他の学校でも行われていることですが、全教員が指導案作成に関わることで、授業の内容をよく理解することができ、授業を参観する際の視点が定まります。そうすることで、授業研究会での話し合いを、より深まりのあるものにすることができます。ただし、学習指導案の作成が目的ではないので、参加する教員の加重負担にならないように配慮しています。

また、この学校では外部講師にも学習指導案の検討会に参加してもらうことで、校内研修をP D C Aのサイクルで行い、効果をあげています。

学習指導案をみんなで作り上げるので、事前に授業の内容が分かり、自分なりの視点をもって授業を参観できるわね！



外部講師に学習指導案の検討から参加してもらえるから、P D C Aが機能して、授業力の向上に役立つわね！

この事例から学ぶこと！

- 学校全体で行う研修と学年ブロック毎に行う研修、それぞれの研修の特長を生かし、二つの研修を効果的に活用して授業力の向上を図っていること。
- ブロック別の授業研究会では、模擬授業を取り入れ、互いに学び合っていること。
- 年間を通して、外部講師との関わりをもち、学校課題解決に向けて研究を深めていること。

授業研究会での模擬授業は、授業者が授業の中で迷いが出た時などの助言を得る際に、参加者が互いにアイデアを出し合い、シミュレーションを通して確認ができる点が大変有効な手法ですね。

外部講師との関わりも、指導案づくりや研修会の進め方等のアドバイスが得られる点がいいですね。また、同一の講師による関わりによって、学校の状況を理解したうえでの適切な指導や助言を受けることができます。



事例 8 授業評価とビデオを活用した授業研究会の工夫

【中学校】生徒による授業評価で授業を振り返り、ビデオに記録した授業を見ながらの授業研究は、自らの実践を振り返るだけでなく、教師中心の考え方を問い直すよい機会となっています。映像を通しての発見が、自分を変え、授業を改善していく手がかりとなっています。

この中学校のA教諭は、教科における今年度の重点課題を、「一人一人の生徒が分かった、楽しいと思える授業の創造」と設定し、日々教材研究に励み、教具の開発、教材提示の工夫を研究してきました。

1 生徒による授業評価の実践

研究課題へのアプローチの妥当性を検証するため、6月と10月に研究授業を行いました。また、研究授業の終了後に、生徒による授業評価を実施しました。

6月の授業評価の結果からは、重点課題として取り組んでいる「一人一人の生徒が分かった、楽しいと思える授業の創造」に直接関係の深い項目6が他の評価項目と比べても満足度が低いことが分かりました。そこで、授業評価の後、より一層の分かる授業を目差し、ワークシートの工夫やコンピュータを利用した教材提示の工夫に力を注ぎました。

授業アンケート		このアンケートは、よりよい授業を行うために、みなさんの意見や感想を聞くものです。成績とは関係ありませんので、素直な意見を聞かせてください。			
年 組	番 名前	教科名			
あてはまるところに、 を付けてください。		あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
1	先生の板書の仕方は分かりやすい。	20	28	9	0
2	先生の話し方や説明の仕方は分かりやすい。	28	25	4	0
3	先生は、授業のねらいをはっきりと示している。	34	14	8	1
4	先生は、様々な教材や機器を活用して授業を進めている。	35	13	8	1
5	先生が準備した資料や学習材は理解や技術の習得に役立つ。	18	22	13	4
6	先生の授業ではやる気が出てくる。	17	20	15	5
7	先生は、ほめて自信をもたせてくれる。	20	24	13	0
8	先生は名前で呼んでくれる。	22	17	17	1
9	先生は一人一人によく声をかけてくれる。	21	19	16	1
10	先生は、失敗や間違いをしても温かく見守ってくれる。	25	30	2	0
11	先生は、分かるまでいねいに教えてくれる。	24	27	6	0
12	先生は授業のはじめと終わりの時間を守ってくれる。	20	25	11	1
13	先生の授業の進め方は、ちょうどよい。	33	21	3	0
14	先生の授業は、質問や発言をしやすい雰囲気である。	23	26	7	1
15	先生は忘れ物や私語などきちんと注意している。	25	17	14	1

6月後半からの3か月、A教諭は自分なりの手応えを感じつつ、10月の研究授業を迎えました。10月の研究授業では、授業実践をビデオに記録し、その後の授業研究会に活用しました。合わせて、二度目の授業評価を授業後に実施しました。

項目 番号	あてはま る		どちらか といえばあ てはまる		どちらか といえばあ てはまらない		あてはまら ない	
	6月	10月	6月	10月	6月	10月	6月	10月
5	18	30	22	17	13	9	4	1
6	17	19	20	22	15	14	5	2
7	20	18	24	21	13	16	0	2
8	22	20	17	16	17	19	1	2
9	21	21	19	17	16	18	1	1

5の項目は、生徒からのよい評価が増えたが、6の項目については、思ったほど生徒からのよい評価は得られませんでした。

7, 8, 9の各項目とも、数人の生徒が低い評価になってしまいました。

調査結果から 授業評価の結果からは、重点的に取り組んできた項目5の「先生が準備した資料や学習材は理解や技術の習得に役立つ」は前回と比べ、生徒からのよい評価が増えました。しかし、項目6の「先生の授業ではやる気が出てくる」については、思ったほどのよい評価は得られませんでした。一方、項目7の「先生は、ほめて自信をもたせてくれる」、項目8の「先生は名前を読んでくれる」、項目9の「先生は一人一人によく声をかけてくれる」の各項目は、前回の評価時と比べ、評価が低くなっていました。

A教諭は、分かる授業の創造を目指し、分かる授業を展開すれば生徒は楽しい授業であると感じてくれると思い、ワークシートの工夫や教材提示の工夫等に力を注いできました。しかし、生徒にとっては、必ずしも「楽しいと思える授業」になっていませんでした。振り返ってみても、A教諭にはその理由が分かりませんでした。



一人一人の生徒が分かった、楽しいと思える授業の創造を目指して、教具やワークシートの工夫をしたり、コンピュータを利用して教材提示の工夫をしたりしてきたのに、生徒はどうしてやる気が出る授業と認めてくれないんだろう？

2 ビデオを活用した授業研究会

その後、授業中の気になる場面を中心に、授業ビデオを見直しながらの授業研究が進められました。ビデオで授業を見合いながら、なぜ、「先生は、名前を呼んでくれる」、「先生は一人一人によく声をかけてくれる」等の評価項目が低いのかを参観者を交えて考えていきました。すると、A教諭は、発問に対して、答えた生徒の回答と異なる答えを引き出すために、回答後すぐに、「他に違う答えはありませんか。」という発言を繰り返していることに気がきました。



さらに、机間指導中にDさんのえんぴつが動いていないのに気付いたA教諭が、Dさんに話しかけたシーンが映っていました。

A教諭：「どうしたのかな？よく分からないところがあるの？」
Dさん：「...。」
A教諭：「先生が準備した資料を参考にするといいよ。がんばってみて。」
Dさん：「...。」 Dさんには、笑顔はありませんでした。



次いで、ワークシートに何度も書いては消すという作業を繰り返していたEさんの机の横にしゃがみ込んで、生徒に言葉をかけているA教諭が映し出されました。



A教諭：「Eさん、・・・はどうか？」と投げかけた言葉に、驚いた仕草を示しながらも、Eさんは微笑み、こう答えました。
Eさん：「私は と思うんですが、自信がないんです。」

これを見ていた参観者の一人が、「どうして、A先生が発した言葉かけにDさんは、何も応えず、Eさんは微笑んだのでしょうか？」とA教諭に尋ねました。A教諭は、Eさんには名前を呼びながら言葉かけをしているのに、Dさんには、名前を呼ばずに声かけをしていることが、このような違いを生んだのではないかと考えました。そして、「先生は名前で呼んでくれる。」という評価項目が低かった理由がこのようにあるのではないかとということにも気付きました。

項目7の「先生は、ほめて自信をもたせてくれる」、項目8の「先生は名前を読んでくれる」、項目9の「先生は一人一人によく声をかけてくれる」の各項目の評価が低くなった理由について、生徒との関わり方に問題があったのではないかと、A教諭は映像を通して振り返ることができました。そして、「先生の授業はやる気が出てくる」の評価項目が、思ったほどよい評価が得られなかった理由もここにあるのではないかと、改めて気付くことができました。

A教諭は、次時から授業中できるだけ生徒一人一人に声をかけることと、生徒の発言を大切に扱うことを心がけました。

この事例から学ぶこと！

- 重点課題の達成度を検証するために、授業評価を2回実施し、その結果を改善に生かしていること。
- 授業をビデオに記録し、実践を振り返っていること。
- 授業評価と授業研究会で得られた事柄を照らし合わせながら、振り返りをしていること。

生徒による授業評価だけでは気付かなかった授業の課題も、ビデオや授業研究会の話し合いを通して気付くことができましたね。

ビデオに授業を記録し、そのビデオを見ながらの授業研究会は、子どもを自習にしたままの授業参観を必ずしも必要としないので、大変効率的な授業研究会の方法の一つです。



事例 9

ワークショップ型授業研究会

【小学校】低・中・高学年のブロックごとに指導案を検討し、校内で互いに授業を公開し合います。その後の授業研究会では、参観者が授業の中で見取った児童の反応や行動(事実)について伝え合い、なぜ、そのような事実が生じたのかを話し合います。複数の参観者が見取った児童の様子を伝え合うことにより、授業者自身が授業をじっくり振り返り、改善点に気付くことができる授業研究会を目指しています。

1 ワークショップ型授業研究会

(1) 授業参観の仕方

授業は、授業者の投げかけに対する児童の反応、表情、つぶやきなど、児童の反応に対する授業者の対応を中心に見取るようにします。

【授業を観る視点の例】

- ・ 子どもの表情が明るくなった。
- ・ 子どもたちの話し合い活動が活発になった。
- ・ 話に広がり生まれた。
- ・ 子どもの理解を助けた。
- ・ 活気付いた。
- ・ 一生懸命考えている。
- ・ 教師が期待している答えと異なる思考をしていた。
- ・ とつぶやいていた。
- ・ 停滞した。

時刻を記入すると、後で時系列に並べる際に便利です。

9:35

「間違えはないんだよ。」という先生の言葉に、Aさんは、にっこり笑って挙手をした。

10:05

Bさんの発言の後に、先生が「他に？」と聞いたのはどうしてですか？

授業中に起きた事実に関して、場面ごとに時間と児童の姿や疑問点等を、付箋紙に簡潔に記入します。



この小学校では、青の付箋紙に学びが成立している点や参考となる点を、ピンクの付箋紙に気になる点や授業者に尋ねたいこと、教えてほしいことなどを記入しました。

(2) 「フリーカード法」によるワークショップ

付箋紙に書いた授業中の児童の反応や事実、事実に対する教師の対応や教師の対応への疑問などを、時間系列と教師・子どもなどの内容系列に区分した模造紙に貼付していき、同じカテゴリーに分類する過程で参加者同士が意見交換を行います。この作業を通して、各自が書いたカードと他のカードとの比較や、同じ内容系列であっても意見を交換することによって、授業の見え方が違ってくことに気付きます。授業の多様な見方に触れることがねらいです。このようなワークショップの活動を通して、参加者相互のコミュニケーションが、自然と研究討議の活性化につながっていきます。

(3) 授業リフレクション

教師の一言(働きかけ)によって、子どもの表情が変わる場面が、1時間のうちに必ず何度か現れます。授業リフレクションでは、それが、どのような一言だったのか、どのような働きかけであったのかを検討していきます。

自己リフレクション

最初に、授業者が自分自身の授業について、次のような項目についてプロンプター¹⁾に説明していく自己リフレクションを行います。

- ・ 授業を実施するにあたっての思いや願い
- ・ 授業中、児童の反応に戸惑った点、驚いた点、困った点 など
- ・ 児童の反応によって予定を変更した点
- ・ 参観者に聞いてみたいこと

授業者の意図を参加者全員が理解しておくことが大切です。



グループリフレクション

参観者は、学びが成立している点、参考となる点を記述した付箋紙を、模造紙に時系列に貼りながら、児童のよさを授業者に伝えます。また、授業を参観して気になった点、授業者に尋ねたいこと、教えてほしいことを模造紙に貼りながら、授業者の対応への意図などを質問していきます。このように、参観者は、肯定的な発言によって授業者の内面を引き出すように心がけることが大切です。プロンプターは、付箋紙が集中している点を中心に、話題を焦点化して話し合い、授業者が振り返れるようにします。その際、授業の様子をVTRに撮影しておく、授業研究会で話題に上った事実を確認しながら、授業の振り返りができます。

ワンポイントアドバイス！

◇ プロンプター(メンター)の役割と進行する上での留意点

リフレクションの手法を生かした授業研究会では、子どもの「学びの姿」を見取る教師の意思決定と思考過程について、プロンプターが質問をしながら検証していきます。プロンプターは、その授業分析の背景にある要素や環境などの情報を聞き出し、授業者と同じ環境や意識になるように努めます。質問される人は、自身を責められているように感じてしまいがちなので、プロンプターの最初の一言は、良かった点を指摘し、そのときに教師は何を考えて言葉かけや投げかけをしたのかを尋ねてみると、話しやすい雰囲気がつくれます。



研究会の振り返り



今回の授業研究会では、授業研究会の最後に、授業者が授業及び討議を通して、気付いたこと、学んだこと、今後に生かしたいことについて述べました。参観者も授業の参観や討議に参加して、学んだこと、気付いたこと、自分の授業に生かしたいことについて述べ合いました。

1)プロンプター：授業リフレクションの場での「聞き役」として、授業者の振り返りを支援する役割を担う人。

他ブロックとの情報交換

ブロックごとの授業研究会終了後、全体会で、それぞれの話し合いの結果を発表し合い、情報交換を図りました。付箋紙を貼ったりフレクションシート(模造紙)は、しばらくの間職員室に掲示しておきました。



2 授業リフレクションの手法を用いた授業研究会

授業リフレクションの手法を用いて実施された、道徳の授業研究会の様子の一部を紹介します。

主題 本当の友達(2の(3)理解・信頼・助け合い)

資料名「ともだち」(出典 小学館「教育技術MOOK」より、一部改作)

〔資料のあらすじ〕

ぼくとマナブとヒデトシは、「カミナリ爺さん」と呼ばれる人の庭に無断で入って虫取りをしていた。カミナリ爺さんに見つかって、三人は逃げようとしたが、ヒデトシだけが捕まってしまった。逃げる事ができた二人は、ヒデトシのことが気に入り、カミナリ爺さんの屋敷に戻る。

プロンプター(P)・参観者(A~F)の発言	授業者(T)の発言
<p>P:最初に今日の授業を行うにあたって、こうしてみたかったとか、このような学びを子どもたちにさせたかったというような、授業への先生の「思い」や「願い」についてお話しください。</p> <p>P:授業を振り返って、授業の中で起きた先生自身の「迷い」や「不安」、「驚き」などはありましたか。</p> <p>P:授業を参観して参考となったことや、児童の様子でぜひ授業者の先生にお伝えしたいこと等がありましたら、付箋紙を貼りながらお話しください。</p> <p>A:導入で目をつぶって友達の顔を浮かべさせましたが、さんなどは、目を開けたときにさんと目を合わせていました。他の児童も落ち着いた雰囲気になりました。</p> <p>B:朗読が効果的で、さんなどは、集中して資料に浸っていましたね。</p> <p>P:今日の授業で子どもがとてものがんばっていたところや場面など気付いたことがありましたら、授業者の先生にぜひ教えてあげてください。</p>	<p>T:友達を思いやる心情を育てたいと考えました。</p> <p>T:第1発問をした際に、Yさんが、第2発問に対する答えを発表したので、驚いて、「それは、次の場面だよ」と言ってしまう。この言葉でみんなが萎縮し、意見が出なくなってしまうのだと思います。</p>
<p>P:授業を参観されて、気になったことやぜひ授業者に聞いてみたいことがありましたらお話しください。</p> <p>D:先生が何人かを意図的に指名なさって、答えが返ってこない場面で、何度か「まとまらない?」と言われましたが、どんな気持ちで言っていたのですか。</p> <p>D:「まとまらない?」と聞かれた子どもは、いい意見を言わなくちゃいけないと思って、言えなくなってしまったのかなと思います。ちゃんは、何度も何度も資料を読み直し、考えていましたよ。</p>	<p>D先生が「まとまらない?」と授業者が言ったときの気持ちを聞きだすことで、授業者の振り返りを促しています。</p> <p>T:普段発言する子が発言せず、さんははずではないと思い、あせってしまいました。</p> <p>T:あせりから、知らず知らずのうちに子どもたちに答えを誘導するように仕向けていたのかもしれないね。</p>

P: Yさんを見ていたのですが、「ヒデトシ」が二人に言ったことばを書く場面で、「ヒデトシ、おいてきて、ごめんね、むかえに行くのがおそくてごめんね。」と逃げた二人の気持ちを書き、満足そうな表情をしていました。隣のMさんに「ヒデトシのことばを書くんだよ。」と教えられて、書き直しました。さらに、Uさんの発表を聞いて、「ありがとう、もどってきてくれて、いい友達がいればくは、幸せだよ。」と「ヒデトシ」の言葉に書き直しました。

C: 私もYさんを見ていました。最初にYさん発言したとき、先生が板書しなかったのが、そわそわした感じになりましたが、第2発問で、彼の意見を板書してくれたので、うれしそうでした。

「ヒデトシ」の言葉を発表する場面で、隣のMさんのワークシートを見て、いい意見だと思ったらしく、Mさんの手を持って手を挙げさせようとしていました。

E: 相手がMさんだからうまくいくのですよ。他の子だったら、もめてしまうでしょう。

P: ところで、Yさんは、第1発問で「あんなこと、しなければよかった。」と言っていました。が、「あんなこと」とは、どんなことを言っていたのだと思いますか？

B: それは、よその庭に入って虫取りをしたことでしょう。



P: すばらしい気づきがありましたね。

P: この討議を通して皆さんが学んだことをお話ください。

D: 付箋紙を使うと、どの場面の意見が多いかが分かり、討議しやすくなります。

F: これまでの自分の授業に対しても、子どもの発言の扱い方についてなど、反省点が見つかりました。

授業中に見取れなかったYさんの活動を教えてもらい、Yさんの行為について、新たな気づきがありました。

Yさんのワークシートを見る

T: そうだったのですか。授業直後にワークシートを見て、Yさんは何度も書き直したなど思ったのですよ。

プロンプターの問い掛けに対して、参観者の気づきを発表しあうことで、授業者はYさんに対する普段からの思い込みが授業を沈滞させてしまったことに気づきました。

T: Yさんは、普段から場にそぐわないことを言ったりしたりしてしまうのです。

T: それじゃあ、Yさんの発言は、第2発問のことではなかったんだわ。第1発問の場面でよかったのですね。私は、「あんなこと」とは、「ヒデトシ」一人を置いて逃げたことだと思っていました。あの場面で、Yさんの発言に「あんなことって、どんなこと？」と切り返して聞いて、取り上げていればよかったのですね。

T: Yさんに対する先入観のようなものがあり、彼の意見を受け止められなかったのが、他の子たちも発言しにくくなってしまったのですね。

T: 思い込みで判断せず、その子の思いや考えをよく聞くことが大切だと思いました。

(1) 授業研究会の気づきを生かした授業改善

授業者は、Yさんの発言の取り上げ方を誤ってしまったことを反省し、翌日Yさんに声をかけました。「Yさんは、昨日の道徳の時間で、逃げてしまったぼくとマナブの気持ちになって、よく考えていたんだね。見に来てくれた先生方も褒めていましたよ。」それを聞いた、Yさんはにっこり笑いました。

また、その後の授業では、児童の発言を共感的に聞くこと、児童の発言に対して必

要に応じて、「どうしてそう思ったのかな?」「あんなこととは、どんなこと?」など、さらに詳しく聞く問いかけや、気持ちを引き出す問いかけをすることを心がけ、授業を改善していきました。

(2) 授業研究会の成果と課題

後日、授業研究会に参加した先生方からは、次のような感想があげられました。

- ・ 指導法についての授業研究会になると、他学年ブロックのことにあまり口を出せないという遠慮がありましたが、児童の動きに視点をあてて参観し、話し合うことで学年ブロックの枠を越えて話し合いができました。
- ・ 先生の指導技術については話題にしにくいですが、児童を話題にすることで話がはずみました。
- ・ 先日の授業研究会のあと、自分の授業でも一人一人の表情、つぶやき、動きなどに、意識して目を向けるようになりました。

普段、見逃しがちな児童の細かい反応が具体的に、しかも時間ごとに記録として残るので活動ごとの児童の様子がよく分かりました。自分の授業も客観的に見ることができました。

子どもの姿をじっくり見ていたら、子どものつぶやきや発言の内面にある気持ちが分かったような気がします。授業をしていると夢中で気付かないのですね。

研究授業をするのは、気が重かったのですが、自分では見取れなかった子どものよさを先生方に教えていただけたので、授業を公開してよかったと思います。

2色の付箋紙を使い分け、要点をまとめて書くことには慣れが必要だと感じました。



ブロックで熱心に指導案検討をして授業を公開していますが、もう少し気楽に授業を見せ合って、授業リフレクションができればよいと思います。

この事例から学ぶこと!

- 付箋紙を利用した授業参観シート等の活用を工夫したこと。
- 授業研究会が、指導技術に目を向けた助言ではなく、複数の参観者が見取った児童の様子を伝え合う研究会であったこと。
- 授業研究会は、ブロックごとの比較的少人数【この学校の場合、学年ブロックの担任+管理職1名+無担任(教務主任や養護教諭等)】にして、話しやすい場を設定したこと。
- 授業参観者の多様な意見を出し合い、お互いを発見する機会としていること。

授業研究会では、授業についての多様な見方や考え方を具体的な事実を通して知り合わせ、共有し合うことが重要なことです。授業中に起こる事実を通して、授業者の成長を支援する場であり、その事実をめぐる話し合いを通して、参加者の成長を促進する場でありたいものです。授業のうまさを論ずる研修ではなく、教員同士が学び合い、育ち合う場となり、そこから学んで、自分自身を変えていくことを研修の目的にしましょう。



今回の調査から

1 意識調査から

今回の調査では、平成 18 年度の全ての 5 年目研修受講者、10 年目研修受講者、20 年目研修受講者を対象にアンケートを実施し、授業力向上への取組および授業評価に関する意識について把握しました。その結果からは、授業力向上を図る校内での効果的な取組は、研究授業と授業研究会であるにとらえられていることが明らかになりました。一方、平成 17 年度中の一年間で、約半数の教員が授業研究会を伴う研究授業の実施が 1 回以下であったことも明らかになりました。

授業評価については、児童生徒による授業評価の効果は理解しつつも、未実施者が実施するにあたっては、不安や危惧があることも明らかになりました。

2 調査協力校の実践から

授業評価に関しては、学校評価の一部に位置付けて取り組んでいる学校が 1 校ありましたが、他の 6 校の先生方は、ほとんど未経験でした。したがって、どの学校も子どもによる授業評価の初めての取組であり、不安を抱えてのスタートでした。しかし、実施していくことで、様々な気付きがありました。子どもから学ぶこともたくさんありました。そして、授業評価を生かして授業の改善を図ることで、子どもと共に授業づくりをしているとう実感が生まれてきました。

また、リフレクションの手法を生かした授業研究会は、参観者が多様な見方、考え方を出し合い、教科や学年を超えて教師が学び合う場になっています。

3 この調査研究を通して

しめくくり、調査協力校の先生方の、印象深い感想を紹介します。

- ・ 最初は不安でしたが、実際にやってみたら、不安がなくなった。自分の授業のやり方でいいと自信を持ちました。子どもへの接し方が変わったという先生もいました。
- ・ これまでも、自己評価・感想は書かせていたのですが、授業評価は新鮮でした。児童理解につながりました。記名させると、事後指導に役立てることが出来ます。例えば、教師に対して一人だけ低い評価をしていた子と休み時間に雑談してみたら、次の時間では、目が輝いていました。教師に対する気持ちが変わったのだと思います。
- ・ 最初は、先生方に抵抗がありました。でも、やってみて、不安を一掃できました。子どもの声に納得することもありました。「授業をこんなふうにとらえてくれていたのか。」と思い、励まされることもあります。低学年は低学年なりにきちんと授業のことを考えていることも分かりました。

本冊子では、調査協力校から提供いただいた資料の全てをご紹介できませんでしたが、事例ごとのまとめとして示した「この事例から学ぶこと！」に反映させていただきました。

この冊子が様々に活用され、授業の改善につながることを祈念します。

引用文献

- 『子どもと教育 授業研究入門』(1996年) 稲垣 忠彦・佐藤 学:著 岩波書店
- 『教えながら 教えられながら』(平成元年) 大村 はま:著 共文社
- 『信頼される学校づくりを進めるための学校評価の在り方 - マイスクールプランの作成と活用を通して -』平成16年度長期県有員 A 学校評価研究報告書
宮城県教育研修センター

参考文献

- 『子どもの声を生かした授業評価・改善 - 自己改革を目指す仙台市の教師サポートプロジェクト -』(平成13年) 仙台市教育センター
- 『指導計画改善のために「授業の振り返り」を取り入れた授業評価の考え方と進め方』(平成17年3月) 仙台市教育センター
- 『生徒の視点を生かした授業評価についての研究 - 高等学校における授業改善への活用可能性 -』 青森県教育委員会
- 『「思考力」をはぐくむ学びの創造 - 脳科学研究との連携、授業力を高める校内研修 -』 香川大学教育学部附属坂出小学校
- 『教師の学び合いから授業力を高めよう!』(平成18年3月) 群馬県総合教育センター
- 『学校の挑戦 学びの共同体を創る』(2006年3月) 佐藤 学:著 小学館
- 『夢中・熱中・集中...そして感動 中原小学校の挑戦!』2005年6月
千葉県柏市立中原小学校:著 東洋館出版社
- 『教育相談推進資料「子どもの心が開くとき 子どもと心が通うとき」』
(平成16年3月) 東京都教育相談センター

参考 URL

- 「山梨県教育研究所」授業をひらき 校内研究会をひらき学校を基盤に立ち上げる授業研究会(2月6日)
<http://www.y-kyoken.com/link.ne.jp/kenkyushien01.htm>
- 第13時 - (2) 授業研究の方法
<http://gipvodn1.shinshu-u.ac.jp/el/e04b1/class13/researchmethod.htm>

資料 1

授業力向上に関する教職員の意識に関する調査結果の概要

1. アンケート項目

- Q1 あなたは、児童・生徒にとって「よい授業」とは、どのような授業だと考えますか。今の自分がめざそうと思
うものを、～ から三つ選んでください。
- Q2 よい授業を展開していくためには、子どもに対する愛情や情熱など様々な要素が想定されますが、その
中から、特に、次のような要素を取り上げたとき、あなたが、最も大切にしたいと思う内容を、～ から
から三つ選んでください。また、「よい授業」を実現するために、今の自分を振り返って、さらに力量を高
めたいと思うものを、三つ選んでください。
- Q3 よい授業を行うために、校内での効果的な取組はどのようなことだと考えますか。
効果的だと考えるものを、次の中から三つまで選んでください。すでに継続的に行っているものは、その
番号を全て記入してください。
- Q4 昨年度、授業公開を伴う研究授業(協議を伴うもの)を、あなたは、何回行いましたか。
ただし、授業参観等の協議を伴わないものは含まないものとします。
- Q5 授業評価で自身の授業力の向上に役立つと思われるのは誰からの評価ですか。
～ から二つ選んでください。
- Q6 あなたは、昨年、～ の項目の例の授業評価を実施しましたか。実施した項目全てに を付けてくだ
さい。
- Q7 (Q6の で をつけた先生のみお答えください)昨年度、児童生徒による授業評価を、あなたは、何回行
いましたか。但し、複数のクラスを対象にしても同一項目について、同時期に実施した場合は1回とカウ
ントします。
- Q8 児童生徒による授業評価を実施することで、どのような効果が期待できると思いますか。期待できると思
われる項目全てに を付けてください(全ての先生がお答えください)。
また、昨年度児童生徒による授業評価を実施した先生は、「昨年度実施」の欄に、実施してよかった項
目の全てに を付けてください。
- Q9 (児童生徒による授業評価について未実施の先生にお聞きします)児童生徒による授業評価を行う場
合、課題と感じられる(心配される)ことは何ですか。(未実施の先生の欄に回答ください)
(昨年度児童生徒による授業評価を実施した先生にお聞きします)、児童生徒による授業評価を行う上で
の、課題と感じられたことは何ですか。(実施済みの先生の欄に回答ください)
当てはまる項目全てに をそれぞれの欄に付けてください。

2. 調査結果

- Q1 あなたは、児童・生徒にとって「よい授業」とは、どのような授業だと考えますか。

	全体	小学校	中学校	高等学校	盲・聾・養
1 わかりやすい授業	70.8%	80.6%	76.7%	77.5%	63.6%
2 達成感・満足感のある授業	59.2%	72.1%	67.6%	48.9%	52.3%
3 新しい発見のある授業	21.3%	20.3%	22.0%	33.5%	8.0%
4 考える場のある授業	37.2%	43.1%	38.0%	42.3%	27.3%
5 興味をもてる授業	23.8%	18.6%	28.2%	41.2%	62.5%
6 子どもにとって目標(めあて)がはっきりしている授業	28.0%	36.5%	32.1%	17.6%	28.4%
7 教師の一方的な話でなく子どもの活動のある授業	22.0%	22.3%	25.1%	28.0%	55.7%
8 教師の意欲や熱意が伝わる授業	5.0%	2.5%	7.3%	9.9%	1.1%
9 その他	1.0%	1.0%	1.7%	0.5%	1.1%

Q2 - 1 よい授業を展開していくためにあなたが、最も大切にしたいと思うこと。

	全体	小学校	中学校	高等学校	盲・聾・養
1 指導技術(一単位時間の授業を展開していく力)	60.6%	66.7%	69.3%	65.4%	54.5%
2 教材研究(教材開発や教材解釈・分析などをする力)	65.9%	70.6%	73.9%	78.0%	73.9%
3 単元構成(指導内容を明確にして指導計画を作成する力)	17.8%	17.6%	20.9%	22.5%	29.5%
4 学習集団マネジメント(学習集団づくりなど、子どもをまとめる力)	38.2%	48.3%	39.4%	34.1%	25.0%
5 子ども理解(個の把握や対応力)	61.5%	71.3%	65.9%	65.4%	93.2%
6 授業評価・改善(自己の授業を振り返り改善していく力)	24.0%	23.8%	25.8%	34.6%	22.7%
7 その他	0.4%	0.7%	0.3%	0.0%	1.1%

Q2 - 2 よい授業を展開していくために、今の自分を振り返って、さらに力量を高めたいと思うこと。

	全体	小学校	中学校	高等学校	盲・聾・養
1 指導技術(一単位時間の授業を展開していく力)	64.5%	77.5%	67.2%	65.4%	61.4%
2 教材研究(教材開発や教材解釈・分析などをする力)	58.4%	65.7%	61.3%	68.7%	77.3%
3 単元構成(指導内容を明確にして指導計画を作成する力)	27.9%	33.3%	30.0%	27.5%	34.1%
4 学習集団マネジメント(学習集団づくりなど、子どもをまとめる力)	35.8%	37.3%	42.2%	41.8%	28.4%
5 子ども理解(個の把握や対応力)	35.3%	35.8%	40.1%	45.6%	50.0%
6 授業評価・改善(自己の授業を振り返り改善していく力)	45.3%	49.0%	53.0%	48.9%	46.6%
7 その他	0.4%	0.2%	1.0%	0.0%	1.1%

Q3 よい授業を行うために、校内での効果的な取組はどのようなことだと考えますか。

	全体	小学校	中学校	高等学校	盲・聾・養
1 校長や教頭から、助言を得る。	3.8%	5.6%	3.1%	2.7%	6.8%
2 学年や教科担当間等のチームで授業を参観し合い、協議をする。	69.3%	76.7%	76.0%	79.1%	75.0%
3 授業研究を中心とした共同研究をする。	43.2%	57.6%	44.9%	31.3%	35.2%
4 保護者、地域に授業を公開する。	8.0%	4.4%	10.1%	17.0%	6.8%
5 他校の教師に授業を公開する。	11.8%	8.3%	16.0%	19.2%	9.1%
6 子ども理解や教材、指導法などについて研修会をする。	54.7%	69.6%	54.7%	50.5%	77.3%
7 指導主事や外部講師を要請して研修をする。	21.5%	30.9%	21.3%	12.1%	21.6%
8 個人や仲間、子ども理解や教材、指導法などについて研究する	34.7%	32.6%	41.5%	47.3%	51.1%
9 その他	1.1%	0.7%	1.4%	2.2%	1.1%

Q4 昨年度、授業公開を伴う研究授業(協議を伴うもの)を、あなたは、何回行いましたか。

	全体	小学校	中学校	高等学校	盲・聾・養
1 0回	38.3%	25.0%	33.1%	76.4%	81.8%
2 1回	42.9%	50.7%	48.1%	17.0%	11.4%
3 2回	12.2%	16.4%	11.8%	3.3%	3.4%
4 3回	3.2%	4.2%	3.5%	0.5%	0.0%
5 4回以上	2.3%	2.5%	2.4%	1.6%	0.0%
0 無回答	1.1%	1.2%	1.0%	1.1%	3.4%

Q5 授業評価で自身の授業力の向上に役立つと思われるのは誰からの評価ですか。

	全体	小学校	中学校	高等学校	盲・聾・養
1 教職員同士の授業評価	48.6%	66.4%	56.1%	22.5%	12.5%
2 管理職による授業評価	36.3%	52.7%	41.5%	11.0%	14.8%
3 児童生徒からの授業評価	35.8%	33.1%	39.7%	54.9%	11.4%
4 保護者による授業評価	17.6%	24.5%	20.6%	6.6%	25.0%
5 地域の人々による授業評価	3.7%	4.4%	6.3%	0.0%	0.0%
6 学校評議員による授業評価	4.0%	4.9%	4.5%	3.3%	0.0%
7 指導主事等による授業評価	28.1%	40.4%	36.2%	2.7%	2.3%
8 その他	0.9%	1.7%	0.7%	0.0%	0.0%
9 実施していない	9.8%	5.4%	7.0%	29.1%	38.6%

Q6 あなたは、昨年、～ の項目の例の授業評価を実施しましたか。

	全体	小学校	中学校	高等学校	盲・聾・養
1 同僚からの評価	69.1%	76.7%	72.5%	83.5%	83.0%
2 管理職からの評価	14.7%	20.1%	18.1%	4.9%	18.2%
3 子どもからの評価	59.2%	56.9%	65.9%	85.7%	50.0%
4 地域や保護者からの評価	6.0%	5.6%	7.7%	7.1%	18.2%
5 学校評議員からの評価	0.2%	0.2%	0.0%	0.5%	0.0%
6 教育委員会(指導主事等)からの評価	21.0%	29.2%	26.5%	5.5%	12.5%
7 自己評価	8.5%	8.3%	9.4%	12.1%	6.8%
8 その他	1.5%	2.2%	2.1%	0.0%	4.5%

Q7 昨年度、児童生徒による授業評価を、あなたは、何回行いましたか。(Q6の で をつけた先生のみ)

	全体	小学校	中学校	高等学校	盲・聾・養
1回	37.2%	31.1%	30.7%	53.0%	20.0%
2回	26.4%	27.4%	24.6%	27.0%	40.0%
3回	18.3%	20.7%	21.9%	11.0%	10.0%
4回	2.3%	1.5%	1.8%	4.0%	0.0%
5回以上	13.8%	17.0%	18.4%	4.0%	10.0%
無回答	2.0%	2.2%	2.6%	1.0%	20.0%

Q8 児童生徒による授業評価を実施することで、どのような効果が期待できると思いますか。

	全体	小学校	中学校	高等学校	盲・聾・養
1 自分の授業を振り返り、授業の改善が図れる	74.2%	83.8%	80.5%	82.4%	68.2%
2 児童生徒の教材、単元への興味関心、理解の有無について理解できる	60.2%	68.1%	69.0%	60.4%	72.7%
3 教師の指導の成果等について児童生徒の意識を通して把握できる	41.5%	46.1%	44.6%	48.4%	30.7%
4 児童生徒から見て、授業がどうだったかが分かり、よい授業を展開しようと心がけるようになる	65.6%	75.2%	71.1%	70.3%	61.4%
5 児童生徒の声や率直な意見、思いや願いを知ることができる	58.7%	65.9%	65.5%	63.2%	52.3%
6 指導方法について、反省、改善する上で参考となる	50.3%	55.1%	58.2%	53.8%	52.3%
7 自分自身の資質向上のため、努力するようになる	46.8%	50.2%	54.4%	52.2%	51.1%
8 PDCAのマネジメントサイクルや評価の重要性について、認識が高まる	10.6%	11.3%	10.1%	15.4%	21.6%
9 子どもたちに信頼される	10.5%	12.3%	12.2%	9.3%	11.4%
10 学校の取組が保護者や地域の方々に信頼される	6.1%	7.1%	6.3%	6.6%	17.0%
11 その他	0.2%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%

Q9 - 1 児童生徒による授業評価を行う場合、課題と感じられる(心配される)ことは何ですか。(未実施の先生の欄に回答ください)

	全体	小学校	中学校	高等学校	盲・聾・養
1 児童生徒が客観的に評価できるかどうか、評価能力に疑問がある	21.0%	28.2%	31.2%	0.0%	0.0%
2 一方的な教師批判になる心配がある。	25.1%	22.7%	24.9%	63.4%	16.7%
3 評価が改善に結びつくか疑問である	6.1%	8.1%	5.8%	7.3%	2.6%
4 形式的な取組になる心配がある	27.7%	30.4%	36.4%	32.9%	28.2%
5 授業中は、評価する時間の確保が難しい	37.6%	48.4%	45.7%	29.3%	21.8%
6 評価後の分析、検討の時間がない	23.5%	27.8%	31.8%	19.5%	11.5%
7 結果の扱いと公表の仕方に不安がある	20.6%	22.7%	23.7%	31.7%	20.5%
8 仕事量が増え、忙しくなる(負担が大きくなる)	17.8%	16.1%	28.9%	20.7%	10.3%
9 必要性を感じない	2.2%	2.6%	1.2%	6.1%	2.6%
10 その他	1.9%	2.9%	1.7%	1.2%	3.8%
0 無回答	48.3%	53.8%	60.1%	62.2%	55.1%

Q9 - 2 児童生徒による授業評価を行う場合、課題と感じられる(心配される)ことは何ですか。(実施済の先生の欄に回答ください)

	全体	小学校	中学校	高等学校	盲・聾・養
1 児童生徒が客観的に評価できるかどうか、評価能力に疑問がある	46.1%	40.7%	53.5%	45.0%	30.0%
2 一方的な教師批判になる心配がある	20.1%	11.1%	17.5%	35.0%	0.0%
3 評価が改善に結びつくか疑問である	6.6%	5.2%	6.1%	9.0%	10.0%
4 形式的な取組になる心配がある	26.6%	29.6%	24.6%	25.0%	30.0%
5 授業中は、評価する時間の確保が難しい	34.7%	39.3%	46.5%	15.0%	20.0%
6 評価後の分析、検討の時間がない	24.4%	30.4%	25.4%	15.0%	0.0%
7 結果の扱いと公表の仕方に不安がある	14.6%	11.9%	14.0%	19.0%	10.0%
8 仕事量が増え、忙しくなる(負担が大きくなる)	15.8%	13.3%	20.2%	14.0%	0.0%
9 必要性を感じない	0.3%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%
10 その他	3.7%	6.7%	1.8%	2.0%	0.0%
0 無回答	24.9%	23.7%	19.3%	33.0%	50.0%

資料 2

児童生徒による授業評価シート(例)

児童生徒による授業評価は、児童生徒に対して評価の目的や意義について具体的に説明した後で、アンケート形式等によって実施します。実施後には、集計結果や改善に向けての方策について、児童生徒に説明します。

児童生徒による授業評価シートは、評価の目的に応じて、様々な様式が考えられます。以下にいくつか例を示します。授業改善のねらいに合わせて、質問内容を変えたり、調査対象の児童生徒に合わせてルビを付けたりするなど、必要に応じて加工してご活用ください。

1. 目的別評価シート

(1) 教師の指導について概括的に把握したい場合 1 (小学校高学年向け評価項目例)

平成 年 月 日 () 曜日 () 学年 教科名() 氏名 _____				
先生の授業について、あてはまるところに をつけてください。よりよい授業にするために生かしたいと思います。				
1 そう思う 2 だいたいそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない				
1 授業の進む速さはちょうどよい。	評	価		
2 先生は、授業のねらいをはっきりと示している。	1	2	3	4
3 黒板の文字や図は見やすく工夫されている。	1	2	3	4
4 先生の説明はていねいで分かりやすい。	1	2	3	4
5 先生は、教科書以外にも様々な資料や機器 <small>きき</small> を活用して授業を進めてくれる。	1	2	3	4
6 何をどうすればよいか指示されたことが分かる。	1	2	3	4
7 先生は、みんなの話を聞く態度が整ってから、指示をしている。	1	2	3	4
8 考えたり活動したりする時間がきちんとある。	1	2	3	4
9 先生の授業は、質問や発言をしやすい雰囲気 <small>ふんいき</small> である。	1	2	3	4
10 先生は、みんなの発表を大切にしてくれる。	1	2	3	4
11 先生は、ほめたり励 <small>はげ</small> ましたりして自信をもたせてくれる。	1	2	3	4
12 先生は、一人一人によく声をかけてくれる。	1	2	3	4
13 先生の授業では、やる気が出てくる。	1	2	3	4
14 先生の授業では、教え合ったり、助けたり協力したりする場がある。	1	2	3	4
15 先生は、忘れ物や私語などをきちんと注意している。	1	2	3	4
16 宿題の量や内容はちょうどよい。	1	2	3	4

(2) 教師の指導について概括的に把握したい場合 2

平成 年 月 日 () 曜日 () 学年 教科名() 氏名 _____	
先生の授業についてみなさんが思うことを下のわくの中に書いて教えてください。もっとよい授業をするために生かしたいと思います。	
1 先生のよいところ	<div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div>
2 先生に直してほしいところ	<div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div>

(3) 説明や質問等の仕方について把握したい場合

平成 年 月 日 () 曜日 () 学年 教科名() 氏名 _____	
先生の授業について、あてはまるところに をつけてください。もっとよい授業にするために生かしたいと思います。	
1 そう思う 2 だいたいそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない	
1 先生の話し方は、言葉がはっきりしていてよく分かる。	評 価
2 話す声の大きさと速さがちょうどよい。	1 2 3 4
3 質問で聞かれていることが分かりやすい。	1 2 3 4
4 何をどうすればよいか指示されたことが分かりやすい。	1 2 3 4
5 先生は私たちの質問にていねいに答えてくれる。	1 2 3 4
6 先生の問いかけや指示は、じっくり考えたり、新しいことに気付いたりするヒントになることが多い。	1 2 3 4
7 授業の感想と先生に望むことがあれば、記入してください。	
<input type="text"/>	

(4) 一人一人を大切にする授業を目指した指導について把握したい場合

平成 年 月 日 () 曜日 () 学年 教科名() 氏名 _____	
先生の授業について、あてはまるところに をつけてください。もっとよい授業にするために生かしたいと思います。	
1 そう思う 2 だいたいそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない	
1 先生は、名前で呼んでくれる。	評 価
2 先生は、私たちの意見や考えを大切に気づかせてくれる。	1 2 3 4
3 先生は、失敗や間違いをしても温かく見守ってくれる。	1 2 3 4
4 先生は、私たちの考えを引き出そうとしてくれる。	1 2 3 4
5 授業の中で、「よくできたね」「がんばっているね」等、はげましや声かけをしてくれる。	1 2 3 4
6 先生の授業は、やる気が出てくる。	1 2 3 4

(5) 教材の準備や提示の仕方について把握したい場合

平成 年 月 日 () 曜日 () 学年 教科名() 氏名 _____	
先生の授業について、あてはまるところに をつけてください。もっとよい授業にするために生かしたいと思います。	
1 そう思う 2 だいたいそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない	
1 先生は、さまざまな教材や機器を活用して授業を進めてくれる。	評 価
2 学習プリントは、要点が分かりやすく使いやすい。	1 2 3 4
3 先生は、授業の大切なポイントを示した資料を準備してくれる。	1 2 3 4
4 先生は、パソコンやOHPを使って、資料を分かりやすく示してくれる。	1 2 3 4
5 先生が提供してくれる資料や教材は学習内容を理解するのに役立つ。	1 2 3 4

活用する際には、(1) ~ (5) の評価シートを目的に応じて使い分けたり、複数組み合わせたりして使うことも可能です。また、項立てして授業評価する場合は、自由記述を入れて、児童生徒の思いを見取ることも大切です。

(6) 指導スキル等について診断的に把握したい場合 (中学生向けの評価項目例)

平成 年 月 日 () 曜日 () 学年 教科名 () 氏名 _____

このアンケートは、授業をよりよいものにするために皆さんに答えてもらうものです。先生の授業について、あてはまる内容の番号を□の中に書いてください。あてはまる内容が複数ある場合は、いくつ選んでもかまいません。

1 先生の話し方はどうですか。(あてはまるものすべて)

- 言葉がはっきりしていてよく分かる。
- 声が大きくてよく分かる。
- 声が小さくてよく聞き取れない。
- 早口で聞き取れない。
- その他 ()

2 先生の板書の仕方はどうですか。(あてはまるものすべて)

- 板書の文字の大きさは見やすい。
- 色の使い分けや矢印がわかりやすい。
- 板書に自分たちの意見が生かされている。
- 板書は分かりやすく整理されている。
- 板書をあちらこちらに書くためにノートに写しにくい。
- その他 ()

3 問題(質問)の出し方はどうですか。(あてはまるものすべて)

- 質問で聞かれていることはよく分かる。
- 分かりやすい言葉で質問してくれる。
- 質問後、考える時間を十分とってくれる。
- 質問の意味がわかりにくい。
- その他 ()

4 説明や指示の仕方はどうですか。(あてはまるものすべて)

- 分かりやすい。
- 具体的に説明してくれる。
- 説明が分かりにくい。
- 同じ説明を何度もする。
- ていねいである。
- 分かるまでていねいに教えてくれる。
- 指示が分かりにくい。
- 板書中心で説明は少ない。

5 質問のしやすさ、質問に対する対応はどうですか。

- 質問や発言をしやすい雰囲気である。
- ていねいに応えてくれる。
- 内容によっては応えてくれる。
- 質問は受け付けてくれない。
- 後で個別に応えてくれる。
- その他 ()

6 先生の対応はどうですか。

- 私たちの意見や考えを大切に気づかってくれる。
- 失敗や間違いをしても温かく見守ってくれる。
- 自分の考えを引き出そうとしてくれる。
- 答えや考えの良さをほめ、はげましてくれる。
- 授業の中で、「よくできたね」「がんばってね」等、はげましや声かけをしてくれる。
- その他 ()

同じ評価項目で教師自身が自己評価し、児童生徒による授業評価と自己評価と合わせて、重点課題を設定するような場合の利用が考えられます。

2. 学期末にとる授業評価シート

(小学校高学年・中学生向けの評価項目例)

授業アンケート(例)

平成 年 月 日 () 曜日 () 学年 教科名() 氏名 _____

このアンケートは、よりよい授業を行うために、みなさんの意見や感想を聞くものです。

成績とは関係ありませんので、素直な意見を聞かせてください。

あてはまるところに を書いてください。	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
1 何を勉強したのか、よく分かる授業が多かった。				
2 先生の説明はていねいで分かりやすかった。				
3 先生が用意した教材やプリントなどは、学習内容を理解するのに役立った。				
4 先生はたくさんの方が発表できるように工夫していた。				
5 自分の意見や考えを発表しやすいふんいきだった。				
6 先生の話し方ははっきりしていて聞きやすかった。				
7 先生が黒板に書いたことは見やすかった。				
8 先生が黒板に書いたことは、学習内容を理解するのに役立った。				
9 考えたり活動したりする時間がきちんとあった。				
10 先生は私たちの考えや意見をよく聞いてくれた。				
11 先生は分からないところやむずかしいところをきちんと説明してくれた。				
12 先生は、みんなの様子を見まわりながら、教えてくれた。				
13 先生は勉強の始まる時間や終わる時間を守った。				
14 先生はいっしょうけんめい勉強を教えてくれた。				
15 宿題の量はちょうどよかった。				
16 教室内は整理整とんされ、勉強しやすかった。				
17 授業がおもしろかった。				
18 授業内容が分かった。				
19 授業中進んで発表することができた。				
20 私は、勉強にいっしょうけんめい取り組んだ。				

授業に関しての感想や要望などがあったら、書いてください。

授業評価の導入と活用に関する参考資料(小・中学校編)

子どもと共につくるよりよい授業を目指して
- 授業評価と授業研究会の新しい展開 -

発行 平成19年3月
栃木県総合教育センター 研究調査部
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070
TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303
URL <http://tochigi-c.ed.jp>